YAMAHA

J

AV レシーバー

RX-V373

取扱説明書

ご使用前に本書の「安全上のご注意」（78 ～ 81ページ）を必ずお読みください。

ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

■ 製品を正しく安全にお使いいただくために、ご使用前に本書をよくお読みください。
お読みになったあとは、保証書と共にいつでも見られるところに大切に保管してください。

■ 保証書に「購入日、販売店名」が正しく記入されていることを必ずご確認ください。

この製品には、本書のほかに「かんたん設置ガイド」が付属しています。はじめに「かんたん設置ガイド」をご覧ください。
本書および「かんたん設置ガイド」は下記のウェブサイトから PDF 版をダウンロードできます。
http://www.yamaha.co.jp/manual/japan/

保証書別添付

目次

商標 4
付属品を確認する 5

本機の特長 6

本機でできること 6
各部の名称 8
前面 8
前面ディスプレイ（インジケーター） 9
背面 10
リモコン 12

準備する 13

使用までの基本的な流れ 13
1 スピーカーを配置する 14
2 スピーカーを接続する 16
入出力端子とケーブル 18
3 テレビを接続する 19
4 再生機器を接続する 23
ビデオ機器を接続する（BD/DVD レコーダーなど） 23
オーディオ機器を接続する（CD プレーヤーなど） 26
本体前面の端子に接続する 27
5 FM/AM アンテナを接続する 27
6 録画 / 録音機器を接続する 28
7 電源コードを接続する 28
8 スピーカー設定を自動で調整する（YPAO） 29
エラーメッセージ 31
警告メッセージ 32

再生する 33

再生の基本操作 33
前面ディスプレイの表示を切り替える 33
入力と設定をワンタッチで切り替える（シーン機能） 34
シーン機能の登録内容を変更する 34
好みのサウンドを選ぶ 35
音場効果を楽しむ（シネマ DSP） 36
音場効果をかけずに再生する 37
圧縮音源をダイナミック再生する（ミュージックエンハンサー） 38
ヘッドホンでサラウンドを楽しむ（サイレントシネマ） 38
FM/AM ラジオを聴く 39
周波数を指定して選局する 39
お気に入りのラジオ局を登録する（プリセット） 39
iPod の曲を再生する 42
iPod を接続する 42
iPod の曲を選ぶ 43
USB 機器の曲を再生する 46
USB 機器を接続する 46
USB 機器の曲を選ぶ 46
再生ソースに合わせて設定する（オプションメニュー） 49
オプションメニューでできること 49

設定する 53

詳細機能を設定する（セットアップメニュー）..... 53
- セットアップメニューでできること 54
- Speaker 56
- HDMI 58
- Sound 60
- ECO 61
- Function 62

システム設定を変更する（アドバンスドセットアップメニュー）..... 63
- アドバンスドセットアップメニューでできること 63
- リモコン ID の変更（REMOTE ID）..... 63
- ビデオ信号方式の変更（TV FORMAT）..... 63
- 設定の初期化（INIT）..... 64
- ファームウェアの更新（UPDATE）..... 64
- ファームウェアバージョンの確認（VERSION）..... 64

付録 65

こんな場合の解決方法 65

故障かな？と思ったら 66
- 電源 / システム 66
- 音声 67
- 映像 68
- FM/AM ラジオ 68
- USB 69
- リモコン 69

前面ディスプレイのエラー表示 70

用語 / 技術解説 71
- 音声に関する用語 71
- HDMI/ 映像に関する用語 72
- ヤマハテクノロジー 72
- 映像信号の流れ 73

HDMI について 73
- HDMI コントロール 73
- 本機が対応している HDMI 信号 75

主な仕様 76

安全上のご注意 78

索引 82

商標

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。「ドルビー」、「Pro Logic」およびダブル D 記号 ◫ はドルビーラボラトリーズの商標です。

米国特許 5,956,674、5,974,380、6,226,616、6,487,535、7,212,872、7,333,929、7,392,195、7,272,567 およびその他の国における特許（出願中含む）に基づき製造されています。DTS-HD および記号は DTS 社の登録商標です。また、DTS-HD ロゴは DTS 社の商標です。製品にはソフトウェアを含みます。

著作権 DTS 社。不許複製。

AAC ロゴマーク はドルビーラボラトリーズの商標です。

「Made for iPod」、「Made for iPhone」とは、それぞれ iPod または iPhone 専用に接続するよう設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとデベロッパーによって認定された電子アクセサリーであることを示します。

アップルは、これらの機器操作または、安全規制基準に関する一切の責任を負いません。本機を iPod または iPhone と使用する場合、無線通信の性能に影響する場合があります。

iPhone、iPod、iPod classic、iPod nano、iPod touch は、米国およびその他の国々で登録されている Apple Inc. の商標です。

HDMI、HDMI ロゴ、および High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing, LLC の商標または登録商標です。

x.v.Color ™

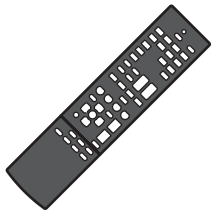
「x.v.Color」は、ソニー株式会社の商標です。

「サイレントシネマ™　SILENT CINEMA ™」はヤマハ株式会社の登録商標です。

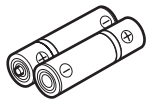
付属品を確認する

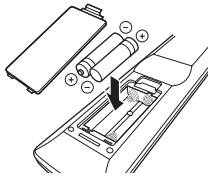
すべて揃っていることをお確かめください。

□リモコン



□単 4 乾電池（2 本）





正しい向き（+と−）でリモコンに入れてください。

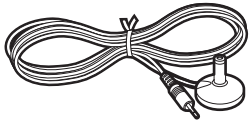
□AM アンテナ



□FM アンテナ



□YPAO 用マイク



□取扱説明書（本書）

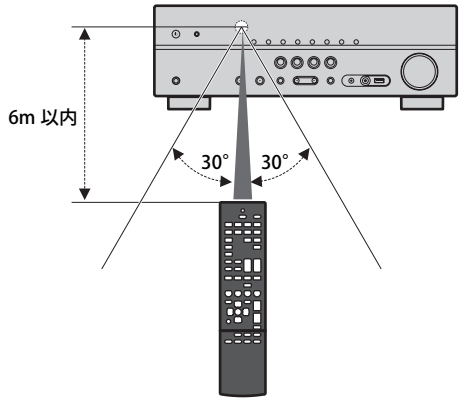


□かんたん設置ガイド



リモコンの操作範囲

- 本体のリモコン信号受光部に向け、以下の範囲内で操作してください。



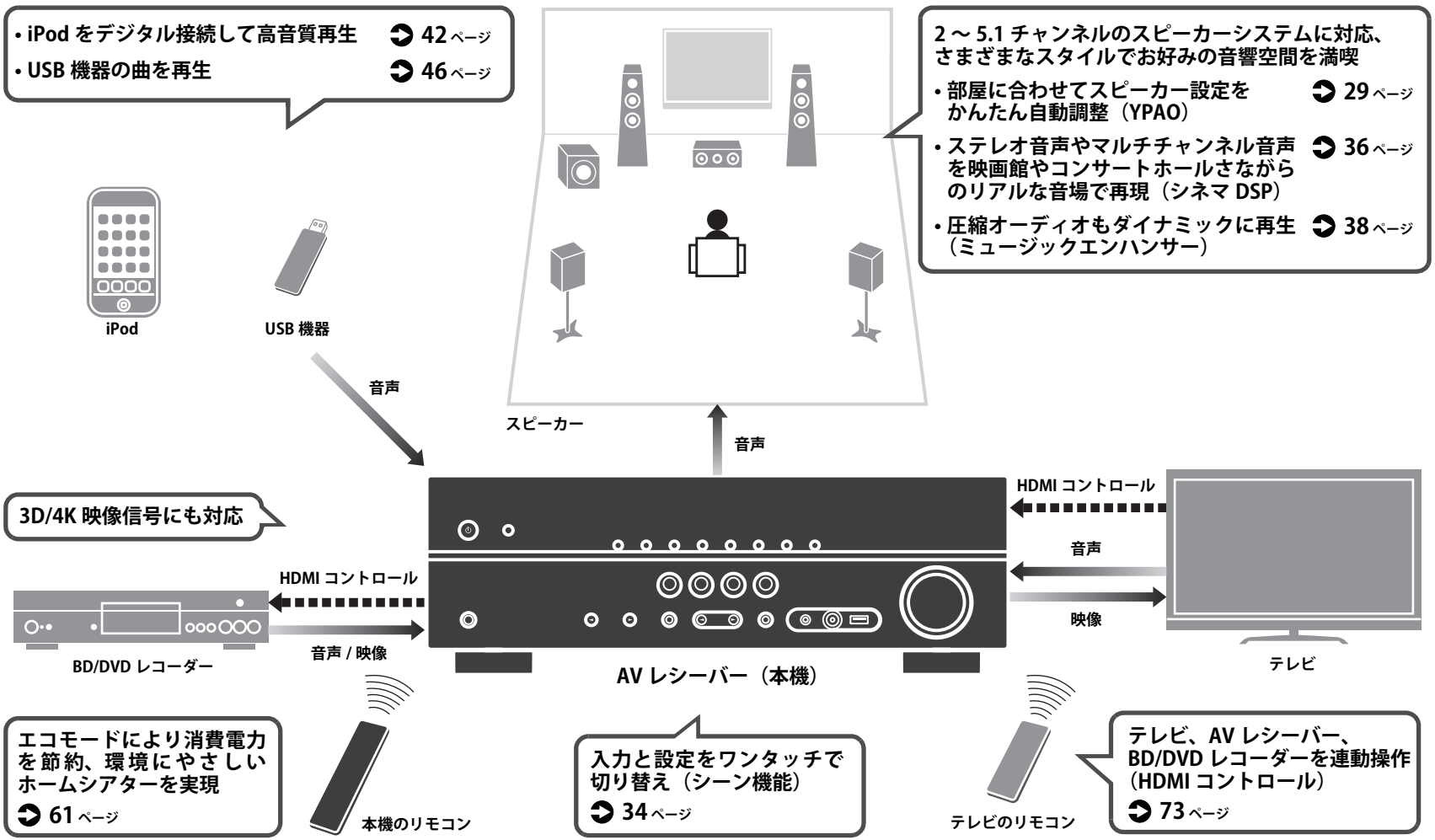
- 仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。
- 本書は付属のリモコンによる操作を主として説明しています。
- 本書は iPod と iPhone を総称して「iPod」と表記しています。説明文に限定する記載がない場合、「iPod」という表記は iPod と iPhone の両方を意味します。
- 本書で使用されている記号

使用時の注意点や機能の制約が記載されています。

知っておくと便利な補足情報が記載されています。

本機の特長

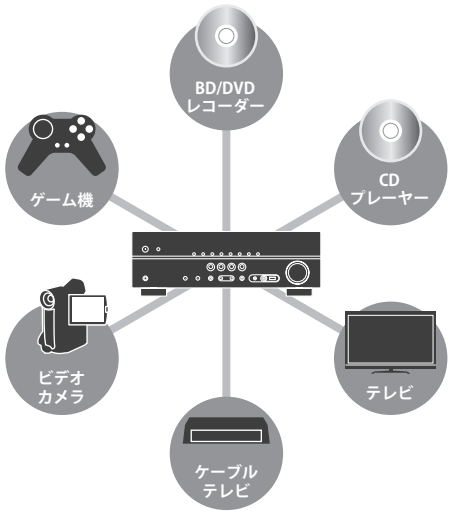
本機でできること



便利な機能が満載！

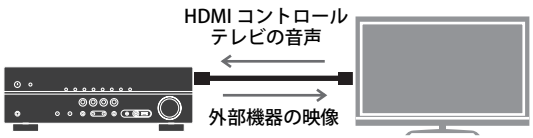
❑ さまざまな外部機器を接続（23ページ）

本機には、複数の HDMI 端子に加えて各種の入力 / 出力端子が装備されているので、BD/DVD レコーダーなどのビデオ機器、CD プレーヤーなどのオーディオ機器、ゲーム機やビデオカメラなどさまざまな外部機器を接続できます。



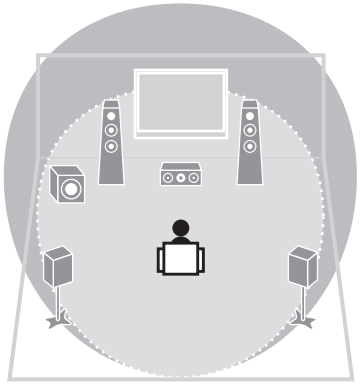
❑ HDMI ケーブル 1 本でテレビ音声もサラウンド再生（オーディオリターンチャンネル：ARC）（19ページ）

ARC 対応のテレビをお使いの場合は、HDMI ケーブル 1 本でテレビへの映像出力、テレビからの音声入力、HDMI コントロール信号の伝送がすべて可能です。



❑ 臨場感豊かな音の空間を再現（36ページ）

シネマ DSP により、自然で臨場感豊かな視聴空間を創り出します。



❑ FM/AM ラジオを聴く（39ページ）

FM/AM チューナーを内蔵。最大 40 局のラジオ局を自動または手動でプリセット（登録）できます。

❑ テレビ画面を見ながら簡単操作

iPod や USB 機器の選曲、各種情報の確認、本機の設定など、オンスクリーンメニューを使って簡単に操作できます。

こんな場合はどうするの！？

本機の入力端子（映像 / 音声）の組み合わせが外部機器と合わない …

「オプションメニュー」の「Audio In」で、本機の入力端子の組み合わせを、外部機器の出力端子にあわせて変更できます（25ページ）。

テレビの映像とスピーカーの音声がずれている …

「セットアップメニュー」の「Lipsync」で、映像と音声の出力タイミングを調整できます（60ページ）。

テレビのスピーカーから音声を出力したい …

「セットアップメニュー」の「Audio Output」で、本機に入力された音声の出力先を設定できます（58ページ）。

ファームウェアを更新したい …

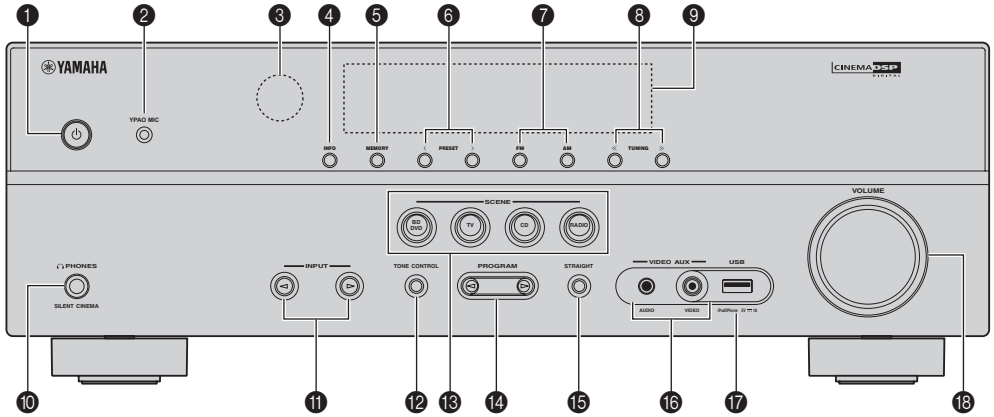
「アドバンスドセットアップメニュー」の「UPDATE」で、本機のファームウェアを更新できます（64ページ）。

ほかにも本機をカスタマイズする設定がたくさんあります。詳しくは以下のページをご覧ください。

- シーン機能の設定（34ページ）
- 再生ソースの音声 / 映像設定、各種情報の確認（49ページ）
- 各種機能の設定（54ページ）
- システム設定（63ページ）

各部の名称

前面



❶ ⏻（電源）キー
電源を入 / 切（スタンバイ）します。

❷ YPAO MIC（YPAO マイク）端子
付属の YPAO 用マイクを接続します（29ページ）。

❸ リモコン信号受光部
リモコンの信号を受信します（5ページ）。

❹ INFO（インフォ）キー
前面ディスプレイの表示を切り替えます（33ページ）。

❺ MEMORY（メモリー）キー
FM/AM ラジオ局をプリセット（登録）します（40ページ）。

❻ PRESET（プリセット）キー
プリセットした FM/AM ラジオ局を選びます（40ページ）。

❼ FM/AM キー
FM/AM を切り替えます（39ページ）。

❽ TUNING（チューニング）キー
ラジオ周波数を切り替えます（39ページ）。

❾ 前面ディスプレイ
各種情報が表示されます（9ページ）。

❿ PHONES（フォーンズ）端子
ヘッドホンを接続します。

⓫ INPUT（インプット）キー
入力を切り替えます。

⓬ TONE CONTROL（トーンコントロール）キー
出力される音声の高音域と低音域のバランスを調節します（50ページ）。

⓭ SCENE（シーン）キー
登録した入力、音場プログラムをワンタッチで選びます（34ページ）。本機がスタンバイ時は、電源も入ります。

⓮ PROGRAM（プログラム）キー
音場プログラムやサラウンドデコーダーを選びます（35ページ）。

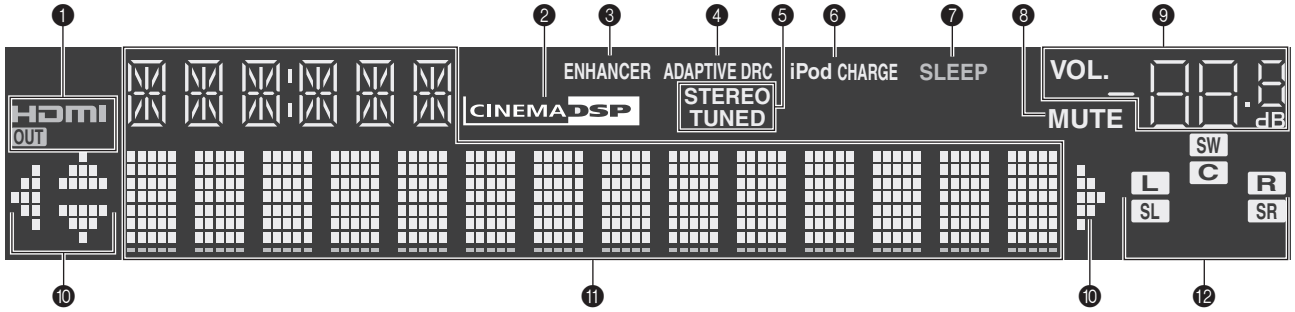
⓯ STRAIGHT（ストレート）キー
ストレートデコードを有効 / 無効にします（37ページ）。

⓰ VIDEO AUX（ビデオ AUX）端子
ビデオカメラやゲーム機などの機器を接続します（27ページ）。

⓱ USB 端子
USB 機器（46ページ）や、iPod に付属の USB ケーブル（42ページ）を接続します。

⓲ VOLUME（ボリューム）つまみ
音量を調節します。

前面ディスプレイ（インジケーター）



❶ HDMI
HDMI 信号入力 / 出力時に点灯します。

OUT（アウト）
HDMI 信号出力時に点灯します。

❷ CINEMA DSP（シネマ DSP）
シネマ DSP（36ページ）が機能しているときに点灯します。

❸ ENHANCER（エンハンサー）
ミュージックエンハンサー（38ページ）が機能しているときに点灯します。

❹ ADAPTIVE DRC（アダプティブ DRC）
アダプティブ DRC（50ページ）が機能しているときに点灯します。

❺ STEREO（ステレオ）
ステレオ放送受信時に点灯します。

TUNED（チューンド）
FM/AM ラジオ受信時に点灯します。

❻ iPod CHARGE（iPod チャージ）
本機がスタンバイ時、iPod を充電中に点灯します（42ページ）。

❼ SLEEP（スリープ）
スリープタイマー設定時に点灯します。

❽ MUTE（ミュート）
消音中に点滅します。

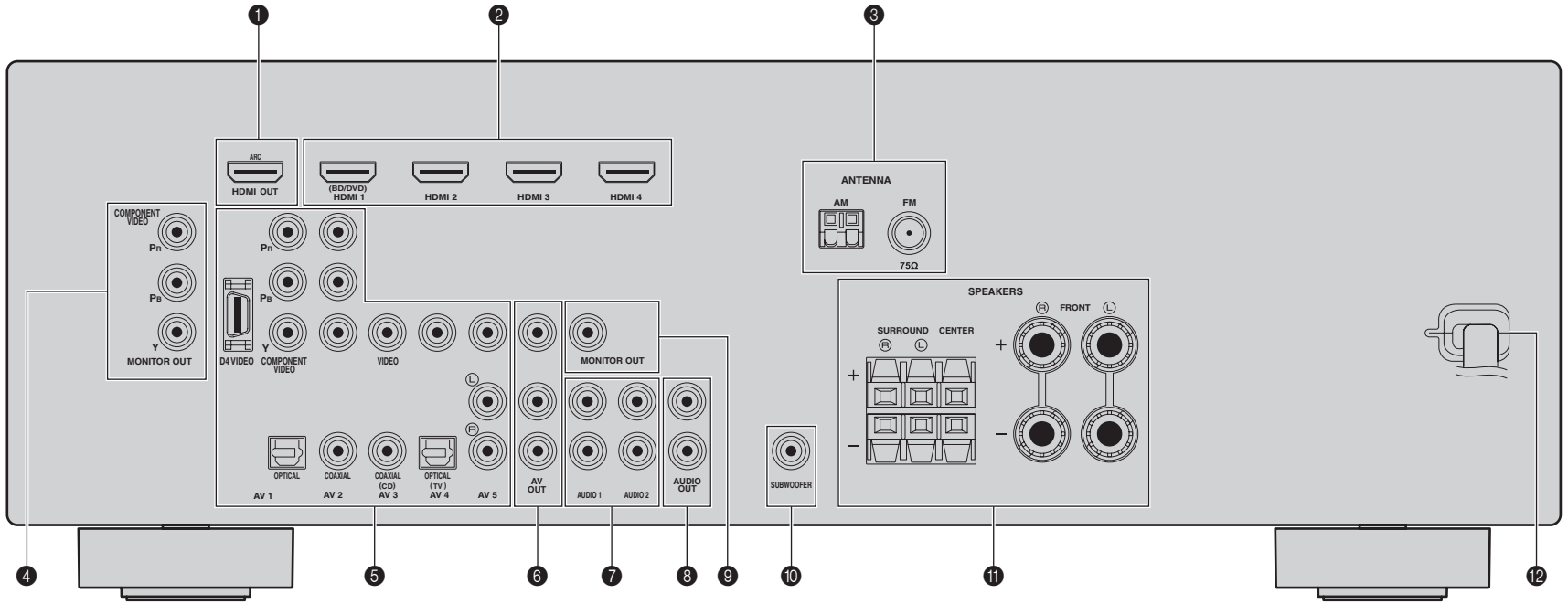
❾ 音量表示
音量を表示します。

❿ カーソル表示
操作可能なリモコンのカーソルキーを表示します。

⓫ 情報ディスプレイ
選択中の入力や音場プログラムなど、ステータス情報が表示されます。
INFO キーで表示する情報を選べます（33ページ）。

⓬ スピーカー表示
音声を出力しているスピーカー端子を表示します。
- **L** フロントスピーカー（左）
- **R** フロントスピーカー（右）
- **C** センタースピーカー
- **SL** サラウンドスピーカー（左）
- **SR** サラウンドスピーカー（右）
- **SW** サブウーファー

背面



• 実際の製品では、誤接続を防ぐため映像 / 音声出力端子の周辺が白色で塗られています。

❶ HDMI OUT（HDMI アウト）端子
HDMI 入力対応のテレビを接続し、映像 / 音声を出力します（19ページ）。ARC 使用時は、HDMI OUT 端子でテレビ音声の入力も可能です。

❷ HDMI1 ～ 4 端子
HDMI 出力対応の再生機器を接続し、映像 / 音声を入力します（23ページ）。

❸ ANTENNA（アンテナ）端子
FM アンテナと AM アンテナを接続します（27ページ）。

❹ MONITOR OUT（モニターアウト）端子（コンポーネントビデオ）
コンポーネントビデオ入力対応のテレビを接続し、映像を出力します（22ページ）。

❺ AV1 ～ 5 端子
映像 / 音声出力を持つ再生機器を接続し、映像 / 音声を入力します（23ページ）。

❻ AV OUT（AV アウト）端子
録画機器（ビデオデッキなど）を接続します（28ページ）。

❼ AUDIO1 ～ 2（オーディオ 1 ～ 2）端子
アナログ音声出力を持つ再生機器を接続し、音声を入力します（26ページ）。

❽ AUDIO OUT（オーディオアウト）端子
録音機器（テープデッキなど）を接続します（28ページ）。

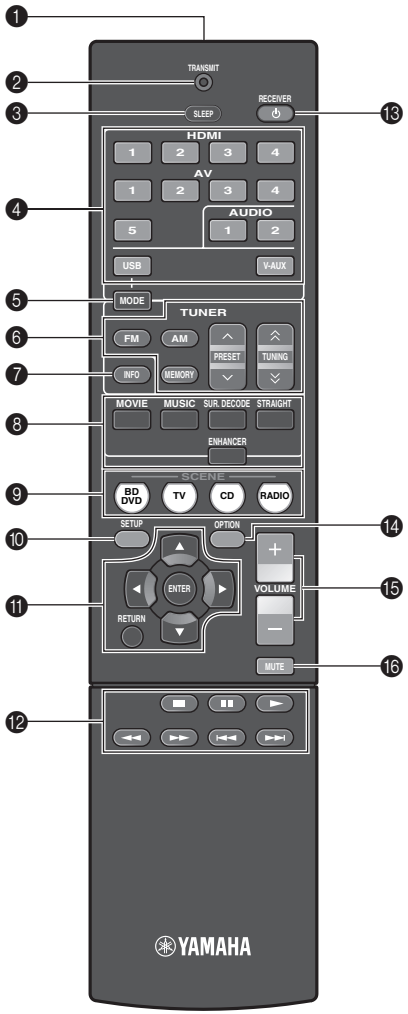
❾ MONITOR OUT（モニターアウト）端子（コンポジットビデオ）
コンポジットビデオ入力対応のテレビを接続し、映像を出力します（23ページ）。

❿ SUBWOOFER（サブウーファー）端子
アンプ内蔵のサブウーファーを接続します（17ページ）。

⓫ SPEAKERS（スピーカー）端子
スピーカーを接続します（16ページ）。

⓬ 電源コード
電源コードのプラグをコンセントに接続します（28ページ）。

リモコン



❶ リモコン信号送信部
赤外線を送信します。

❷ TRANSMIT（トランスミット）表示
リモコン信号送信時に点灯します。

❸ SLEEP（スリープ）キー
繰り返し押してスリープタイマーの時間（120 分、90 分、60 分、30 分、切）を設定します。スリープタイマー設定中は前面ディスプレイに「SLEEP」が点灯します。指定した時間が経過すると本機がスタンバイになります。

❹ 入力選択キー
再生する入力を選びます。

HDMI1 ～ 4 キー	HDMI1 ～ 4 端子
AV1 ～ 5 キー	AV1 ～ 5 端子
AUDIO1 ～ 2 キー	AUDIO1 ～ 2 端子
USB キー	前面の USB 端子
V-AUX キー	前面の VIDEO AUX 端子

❺ MODE（モード）キー
FM ラジオのステレオ / モノラルを切り替えます（39ページ）。
iPod の操作モードを切り替えます（44ページ）。

❻ ラジオキー
FM/AM ラジオを操作します（39ページ）。

FM キー	FM ラジオに切り替えます。
AM キー	AM ラジオに切り替えます。
MEMORY キー	FM/AM ラジオ局をプリセット（登録）します。
PRESET キー	プリセットしたFM/AMラジオ局を選びます。
TUNING キー	ラジオ周波数を切り替えます。

❼ INFO（インフォ）キー
前面ディスプレイの表示を切り替えます（33ページ）。

❽ サウンド選択キー
音場プログラムやサラウンドデコーダーなどを選びます（35ページ）。

❾ SCENE（シーン）キー
登録した入力、音場プログラムをワンタッチで選びます（34ページ）。本機がスタンバイ時は、電源も入ります。

❿ SETUP（セットアップ）キー
セットアップメニューを表示します（53ページ）。

⓫ メニュー操作キー

カーソルキー	メニューや設定値を選びます。
ENTER キー	選択項目を決定します。
RETURN キー	メニュー操作中に、1 つ前の表示に戻します。

⓬ 外部機器操作キー
iPod（44ページ）や USB 機器（48ページ）の再生操作を行います。

⓭ RECEIVER ⏻（レシーバー電源）キー
本機の電源を入 / 切（スタンバイ）します。

⓮ OPTION（オプション）キー
オプションメニューを表示します（49ページ）。

⓯ VOLUME（ボリューム）キー
音量を調節します。

⓰ MUTE（ミュート）キー
消音します。

準備する

使用までの基本的な流れ

1 スピーカーを配置する（14ページ）	使用するスピーカーの本数に応じてシステムを決定し、各スピーカーを部屋に配置します。
2 スピーカーを接続する（16ページ）	各スピーカーを本機に接続します。
3 テレビを接続する（19ページ）	テレビを本機に接続します。
4 再生機器を接続する（23ページ）	ビデオ機器（BD/DVD レコーダーなど）やオーディオ機器（CD プレーヤーなど）を本機に接続します。
5 FM/AM アンテナを接続する（27ページ）	付属の FM アンテナと AM アンテナを本機に接続します。
6 録画 / 録音機器を接続する（28ページ）	録画 / 録音機器を本機に接続します。
7 電源コードを接続する（28ページ）	すべての接続が完了したら、電源コードのプラグをコンセントに接続します。
8 スピーカー設定を自動で調整する（29ページ）	音量バランスや音色などのスピーカー設定を自動で調整します（YPAO）。

これで使用前に必要な接続および設定は完了です。映画、音楽、ラジオなど、本機での再生を存分にお楽しみください！

1 スピーカーを配置する

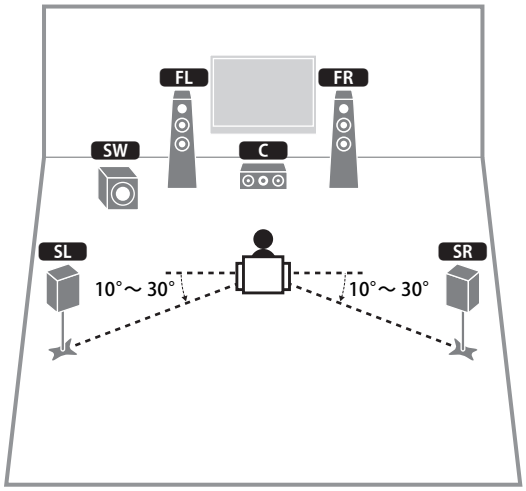
使用するスピーカーの本数に応じてシステムを決定し、各スピーカーおよびサブウーファー（アンプ内蔵）を部屋に配置します。本書では例として、代表的な配置方法を説明します。

注意

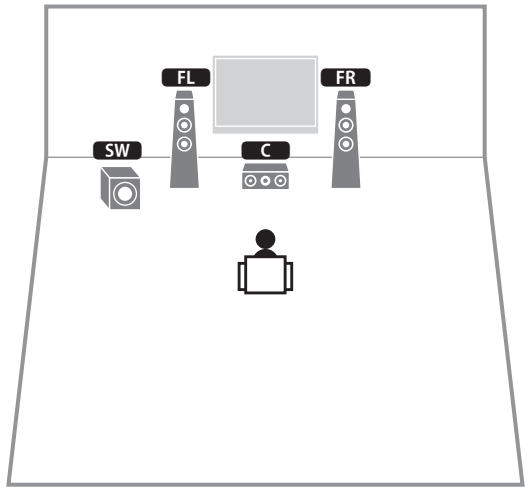
- スピーカーはインピーダンスが 6Ω 以上のものをお使いください。

スピーカーの種類	略称	機能	スピーカーシステム（チャンネル数）			
			5.1	4.1	3.1	2.1
フロント（左）	FL	フロント左 / 右チャンネルの音声（ステレオ音声）を出力します。	○	○	○	○
フロント（右）	FR		○	○	○	○
センター	C	センターチャンネルの音声、映画のセリフ / ボーカルなど、画面中央に位置する音声を出力します。	○		○	
サラウンド（左）	SL	サラウンド左 / 右チャンネルの音声を出力します。	○	○		
サラウンド（右）	SR		○	○		
サブウーファー	SW	LFE（低域効果音）チャンネルの音声や、フロントやサラウンドチャンネルなどの低音を出力します。 サブウーファーのチャンネル数は「0.1」と表します。	○	○	○	○

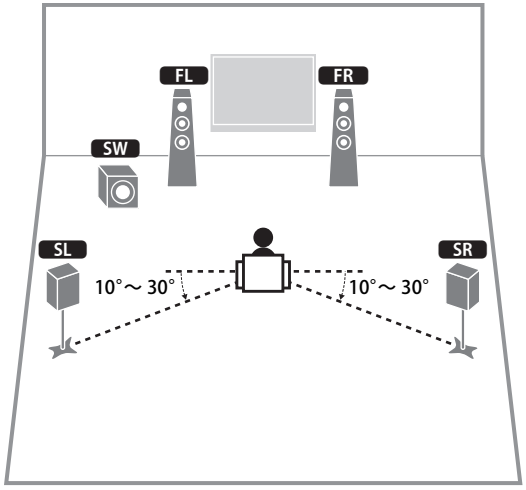
5.1 チャンネルシステム



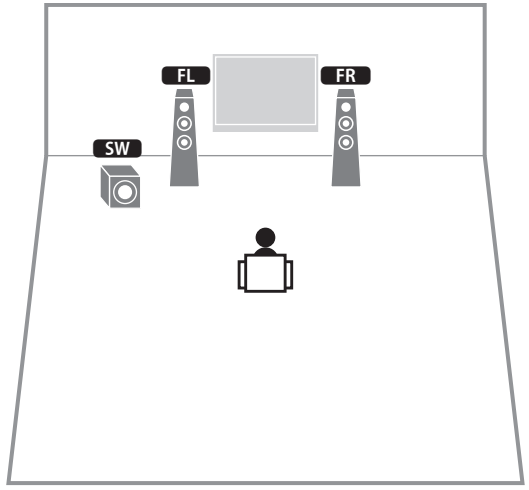
3.1 チャンネルシステム



4.1 チャンネルシステム



2.1 チャンネルシステム



2 スピーカーを接続する

部屋に配置したスピーカーを本機に接続します。ここでは例として、5.1 チャンネルシステムの接続図を記載しています。これ以外は 5.1 チャンネルシステムの接続図を参考に、配置したスピーカーを接続してください。

注意

- スピーカーを接続する前に、本機の電源プラグをコンセントから外してください。また、サブウーファーの電源を切ってください。
- スピーカーケーブルの芯線どうしが接触したり、本機の金属部に触れたりしないようにしてください。本機やスピーカーが故障する原因となります。スピーカーケーブルがショートしている状態で電源を入れると、前面ディスプレイに「Check SP Wires」と表示されます。

必要なケーブル（市販品）

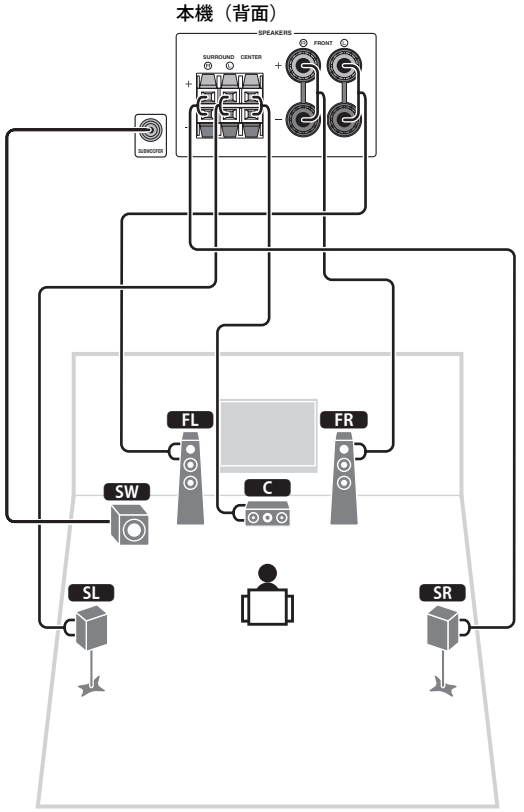
- スピーカーケーブル（スピーカーの本数分）



- モノラルピンケーブル（1 本：サブウーファー接続用）



5.1 チャンネルシステム



■ スピーカーケーブルを接続する

通常スピーカーケーブルは 2 芯（＋と－）で 1 本になっています。片方で本機とスピーカーの－（マイナス）端子どうし、もう一方で＋（プラス）端子どうしを接続してください。色で区別されている場合、黒を－（マイナス）側、もう一方を＋（プラス）側と決めておくと間違わずに接続できます。

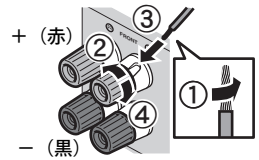
（フロントスピーカーの接続）

① ケーブル先端の絶縁部（被覆）を 10mm ほどはがし、芯線をしっかりとよじる。

② スピーカー端子をゆるめる。

③ 端子側面（右上または左下）のすき間にスピーカーケーブルの芯線を差し込む。

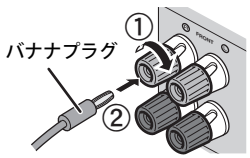
④ 端子を締め付ける。



バナナプラグを使用する場合

① スピーカー端子を締め付ける。

② 端子にバナナプラグを差し込む。



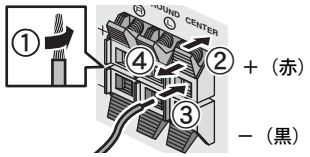
（センター / サラウンドスピーカーの接続）

① ケーブル先端の絶縁部（被覆）を 10mm ほどはがし、芯線をしっかりとよじる。

② タブを押し続ける。

③ 端子の穴にスピーカーケーブルの芯線を差し込む。

④ タブを離す。

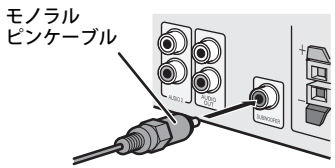


＋（赤）

－（黒）

■ サブウーファーを接続する

サブウーファーの接続には、モノラルピンケーブルを使います。



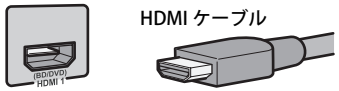
入出力端子とケーブル

本機は以下の入出力端子を装備しています。接続する外部機器側の端子に合わせて、必要なケーブルをご用意ください。

■ 映像 / 音声を入出力する端子

❑ HDMI 端子

デジタル映像およびデジタル音声を伝送します。接続には、HDMI ケーブルを使います。



HDMI ケーブル

- HDMI ロゴ入りの HDMI ケーブル（19 ピン）をお使いください。また、信号の品質劣化を防ぐため、長さが 5.0 メートル以下のケーブルをおすすめします。
- 外部機器の DVI 端子と接続する場合は、HDMI ⇔ DVI-D ケーブルをお使いください。

- HDMI コントロール、オーディオリターンチャンネル（ARC）、3D 映像と 4K 映像の伝送に対応しています。
- 3D 映像、4K 映像をお楽しみになる場合は、ハイスピード HDMI ケーブルをお使いください。

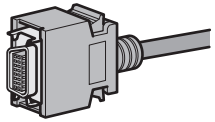
■ 映像を入出力する端子

❑ D4 VIDEO 端子

映像を輝度信号（Y）、青色差信号（PB）、赤色差信号（PR）に分離し、コントロール信号（走査線、アスペクト比などの情報）を含めて伝送します。接続には、D 端子ケーブルを使います。



D 端子ケーブル

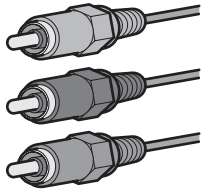


❑ COMPONENT VIDEO 端子

映像を輝度信号（Y）、青色差信号（PB）、赤色差信号（PR）に分離して伝送します。接続には、3 つのプラグを持つコンポーネントケーブルを使います。



コンポーネントケーブル

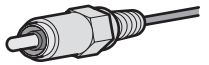


❑ VIDEO 端子

アナログ映像を伝送します。接続には、映像用ピンケーブルを使います。



映像用ピンケーブル



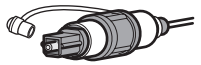
■ 音声を入出力する端子

❑ OPTICAL 端子

デジタル音声を伝送します。接続には、光デジタルケーブルを使います。ケーブルの先端にキャップが付いている場合は、取り外してからお使いください。



光デジタルケーブル

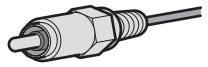


❑ COAXIAL 端子

デジタル音声を伝送します。接続には、同軸デジタルケーブルを使います。



同軸デジタルケーブル



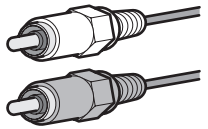
❑ AUDIO 端子

（ステレオ L/R 端子）

アナログステレオ音声を伝送します。接続には、ステレオピンケーブルを使います。



ステレオピンケーブル

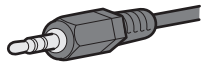


（ステレオミニ端子）

アナログステレオ音声を伝送します。接続には、ステレオミニプラグケーブルを使います。



ステレオミニプラグケーブル

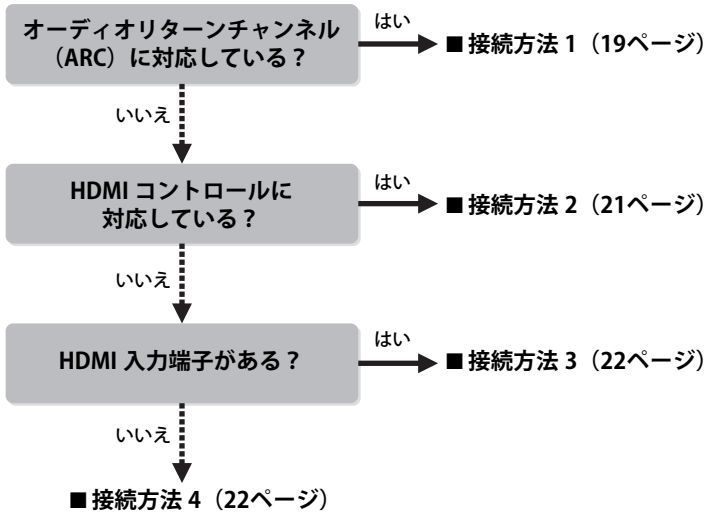


3 テレビを接続する

テレビと本機を接続して、本機に入力された映像をテレビに出力します。また、テレビ番組の音声を本機で楽しむことができます。

テレビに備わっている映像入力端子や機能により、推奨する接続方法が異なります。テレビの取扱説明書をご確認のうえ、接続方法を選んでください。

お使いのテレビは



ビデオ機器を HDMI 以外で接続する場合

- 本機の AV1 ～ 2（D4 VIDEO または COMPONENT VIDEO) 端子にビデオ機器を接続する場合は、テレビを本機の MONITOR OUT（COMPONENT VIDEO）端子に接続する必要があります（22ページ）。
- 本機の AV3 ～ 5（VIDEO）端子または VIDEO AUX（VIDEO）端子にビデオ機器を接続する場合は、テレビを本機の MONITOR OUT（VIDEO）端子に接続する必要があります（23ページ）。

● HDMI コントロールとは …

HDMI ケーブルで本機とテレビを接続すると、テレビのリモコン操作に連動して、本機の電源や音量などを操作できます。またHDMIケーブルで接続した再生機器（HDMI コントロール対応の BD/DVD レコーダーなど）も操作できます。詳しくは「HDMI について」（73ページ）をご覧ください。

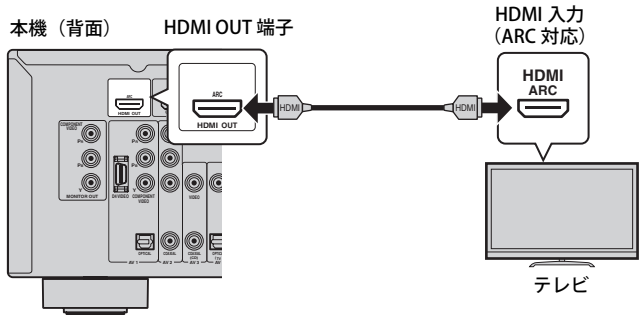
●オーディオリターンチャンネル（ARC）とは …

HDMI コントロールの制御のもと、1 本の HDMI ケーブルで音声信号の送受信を可能にします。テレビが HDMI コントロールおよび ARC に対応している場合、本機からテレビに映像を伝送している HDMI ケーブルを使って、テレビの音声を本機に入力することができます。

■ 接続方法 1（HDMI コントロール /ARC 対応のテレビ）

HDMI ケーブルを使って、テレビを本機に接続します。

- 以下の接続および設定手順は、セットアップメニューの「HDMI」（58ページ）が初期値から変更されていないことを前提に説明しています。
- ARC 対応の HDMI ケーブルをお使いください。



- HDMI ケーブルで本機とテレビを接続すると、iPod や USB 機器の選曲、本機の各種機能の設定がテレビ画面を見ながら操作できます。

❑ 必要な設定

HDMI コントロールや ARC を使うには、あらかじめ設定が必要です。
テレビの設定や操作については、テレビの取扱説明書をご覧ください。

1 **外部機器（テレビ、再生機器など）や電源コードの接続が完了したら、本機、テレビ、再生機器の電源を入れる。**

2 **HDMI コントロールを使うための設定をする。**

① テレビ、およびHDMIコントロール対応の再生機器（BD/DVDレコーダーなど）のHDMIコントロール機能を有効にする。

② テレビの主電源を切ってから、本機と再生機器の電源を切る。

③ 本機と再生機器の電源を入れてから、テレビの主電源を入れる。

④ テレビ側の入力設定を本機からの映像に切り替える。

⑤ 以下の点を確認する。

本機：再生機器からの HDMI 入力（「HDMI1 ～ 4」のいずれか）に切り替わっている。ほかの入力が選ばれている場合は、手動で入力を選んでください。

テレビ：画面に再生機器の映像が表示されている。

⑥ テレビのリモコンを使って電源スタンバイ、音量調節などの操作を行い、本機が連動するか確認する。連動しない場合は、セットアップメニューの「HDMI Control」（58ページ）が「On」になっているかを確認してください。

- **HDMI コントロールが正しく機能しないときに、再生機器の電源を入れ直したり、電源プラグを差し直したりすると改善されることがあります。**
- **電源のみ連動しない場合は、テレビ側の優先音声出力設定を確認してください。**

3 **テレビの ARC 機能が有効になっていることを確認する。**

これで設定は完了です。

テレビのリモコンでテレビ番組を選ぶと、本機の入力が自動的に「AV4」に切り替わり、テレビの音声が本機から出力されます。テレビの音声が出力されない場合は、セットアップメニューの「ARC」（59ページ）が「On」になっているか確認してください。

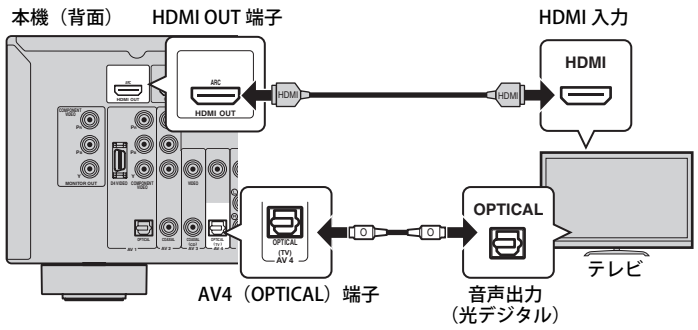
- **ARC 使用時に音声が途切れる場合は、セットアップメニューの「ARC」（59ページ）を「Off」に設定し、光デジタルケーブルで本機とテレビを接続してください（21ページ）。**

- **初期状態では、テレビの音声入力用として「AV4」が設定されています。AV4 端子に別の機器を接続している場合は、セットアップメニューの「TV Audio Input」（59ページ）でテレビ音声を割り当てる入力を変更してください。また、シーン機能（34ページ）を使う場合は、SCENE（TV）キーの入力設定もあわせて変更してください。**

■ 接続方法 2（HDMI コントロール対応のテレビ）

HDMI ケーブルと光デジタルケーブルを使って、テレビを本機に接続します。

- 以下の接続および設定手順は、セットアップメニューの「HDMI」（58ページ）が初期値から変更されていないことを前提に説明しています。



- HDMI ケーブルで本機とテレビを接続すると、iPod や USB 機器の選曲、本機の各種機能の設定がテレビ画面を見ながら操作できます。

❑ 必要な設定

HDMI コントロールを使うには、あらかじめ設定が必要です。

テレビの設定や操作については、テレビの取扱説明書をご覧ください。

1 **外部機器（テレビ、再生機器など）や電源コードの接続が完了したら、本機、テレビ、再生機器の電源を入れる。**

2 **HDMI コントロールを使うための設定をする。**

① テレビ、およびHDMI コントロール対応の再生機器（BD/DVD レコーダーなど）のHDMI コントロール機能を有効にする。

② テレビの主電源を切ってから、本機と再生機器の電源を切る。

③ 本機と再生機器の電源を入れてから、テレビの主電源を入れる。

④ テレビ側の入力設定を本機からの映像に切り替える。

⑤ 以下の点を確認する。

本機：再生機器からの HDMI 入力（「HDMI1 ～ 4」のいずれか）に切り替わっている。ほかの入力が選ばれている場合は、手動で入力を選んでください。

テレビ：画面に再生機器の映像が表示されている。

⑥ テレビのリモコンを使って電源スタンバイ、音量調節などの操作を行い、本機が連動するか確認する。

連動しない場合は、セットアップメニューの「HDMI Control」（58ページ）が「On」になっているかを確認してください。

これで設定は完了です。

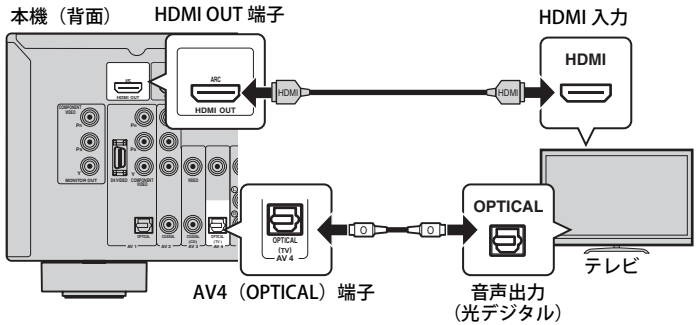
テレビのリモコンでテレビ番組を選ぶと、本機の入力が自動的に「AV4」に切り替わり、テレビの音声が本機から出力されます。

- HDMI コントロールが正しく機能しないときに、再生機器の電源を入れ直したり、電源プラグを差し直したりすると改善されることがあります。
- 電源のみ連動しない場合は、テレビ側の優先音声出力設定を確認してください。

- 初期状態では、テレビの音声入力用として「AV4」が設定されています。AV4 端子に別の機器を接続している場合や、テレビ音声の入力に OPTICAL 端子（光デジタルケーブル）以外を使いたい場合は、セットアップメニューの「TV Audio Input」（59ページ）でテレビ音声を割り当てる入力を変更してください。また、シーン機能（34ページ）を使う場合は、SCENE（TV）キーの入力設定もあわせて変更してください。

■ 接続方法 3（HDMI 入力端子があるテレビ）

HDMI ケーブルと光デジタルケーブルを使って、テレビを本機に接続します。



AV4 キーまたは SCENE（TV）キーで入力を「AV4」に切り替えると、テレビの音声が本機から出力されます。

- HDMI ケーブルで本機とテレビを接続すると、iPod や USB 機器の選曲、本機の各種機能の設定がテレビ画面を見ながら操作できます。
- AV4 端子に別の機器を接続している場合や、テレビ音声の入力に OPTICAL 端子（光デジタルケーブル）以外を使いたい場合は、ほかの音声入力端子（AV1 ～ 5、AUDIO1 ～ 2 のいずれか）に接続してください。また、SCENE（TV）キーの入力設定をあわせて変更してください（34ページ）。

■ 接続方法 4（HDMI 入力端子がないテレビ）

本機の AV1 ～ 2（D4 VIDEO または COMPONENT VIDEO）端子にビデオ機器を接続する場合は、テレビを本機の MONITOR OUT（COMPONENT VIDEO）端子に接続します。

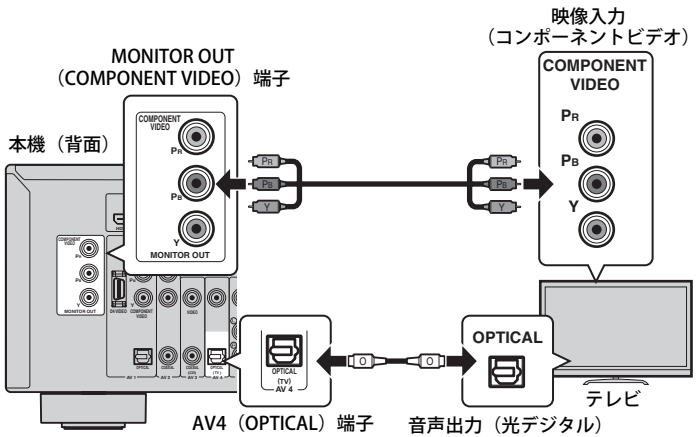
本機の AV3 ～ 5(VIDEO) 端子または VIDEO AUX（VIDEO）端子にビデオ機器を接続する場合は、テレビを本機の MONITOR OUT（VIDEO）端子に接続します。

AV4 キーまたは SCENE（TV）キーで入力を「AV4」に切り替えると、テレビの音声が本機から出力されます。

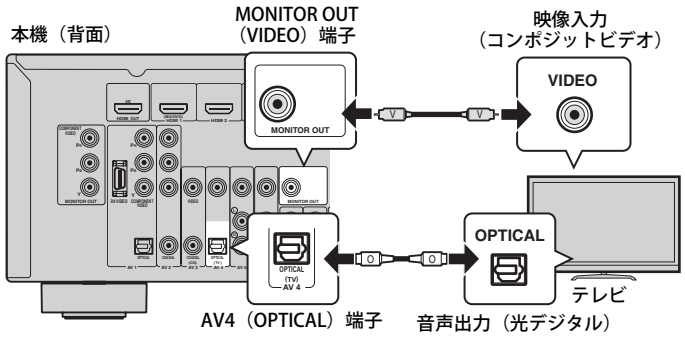
- HDMI で接続したビデオ機器の映像は、HDMI 以外で接続したテレビには出力できません。詳しくは「映像信号の流れ」（73ページ）をご覧ください。
- HDMI 以外で本機とテレビを接続した場合、iPod や USB 機器の選曲、本機の各種機能の設定などをテレビ画面で操作することはできません。

- AV4 端子に別の機器を接続している場合や、テレビ音声の入力に OPTICAL 端子（光デジタルケーブル）以外を使いたい場合は、ほかの音声入力端子（AV1 ～ 5、AUDIO1 ～ 2 のいずれか）に接続してください。また、SCENE（TV）キーの入力設定をあわせて変更してください（34ページ）。
- テレビの映像入力端子が D 端子の場合は、D 端子 / コンポーネント変換ケーブルを使って、テレビを本機の MONITOR OUT（COMPONENT VIDEO）端子に接続してください。

❑ コンポーネントビデオ接続（コンポーネントケーブルを使用）



❑ ビデオ（コンポジット）接続（映像用ピンケーブルを使用）



4 再生機器を接続する

本機は HDMI 端子をはじめとする各種の入力端子を装備しています。接続する再生機器の出力端子により、接続方法を選んでください。

iPod、USB 機器の接続については、以下のページをご覧ください。

- iPod を接続する（42ページ）
- USB 機器を接続する（46ページ）

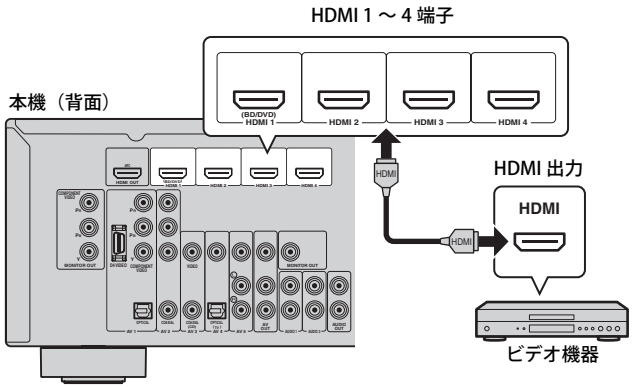
ビデオ機器を接続する（BD/DVD レコーダーなど）

BD/DVD レコーダー、衛星放送 / ケーブルテレビのチューナー、ゲーム機などのビデオ機器を本機に接続します。接続するビデオ機器の出力端子（映像 / 音声）により、接続方法を選んでください。ビデオ機器に HDMI 出力端子がある場合は、HDMI 接続をおすすめします。

- **本機の入力端子（映像 / 音声）の組み合わせがビデオ機器と合わない場合は、本機の入力端子の組み合わせを、ビデオ機器の出力端子にあわせて変更してください（25ページ）。**

■ HDMI 接続

HDMI ケーブルを使って、ビデオ機器を本機に接続します。



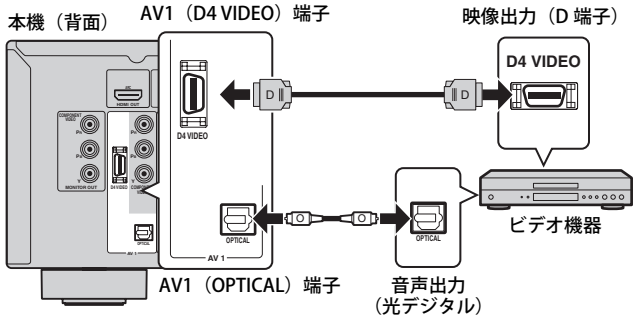
HDMI1 ～ 4 キーで入力を選ぶと、ビデオ機器の映像 / 音声が本機から出力されます。

- HDMI1 ～ 4 端子に接続したビデオ機器の映像をテレビで見るには、テレビを本機の HDMI OUT 端子に接続する必要があります（19 ～ 22ページ）。

■ D 端子接続

D 端子ケーブルと光デジタルケーブルを使って、ビデオ機器を本機に接続します。

- AV1 端子の D4 VIDEO 端子と COMPONENT VIDEO 端子には、同時に機器を接続しないでください。



AV1 キーで入力を「AV1」に切り替えると、ビデオ機器の映像 / 音声が本機から出力されます。

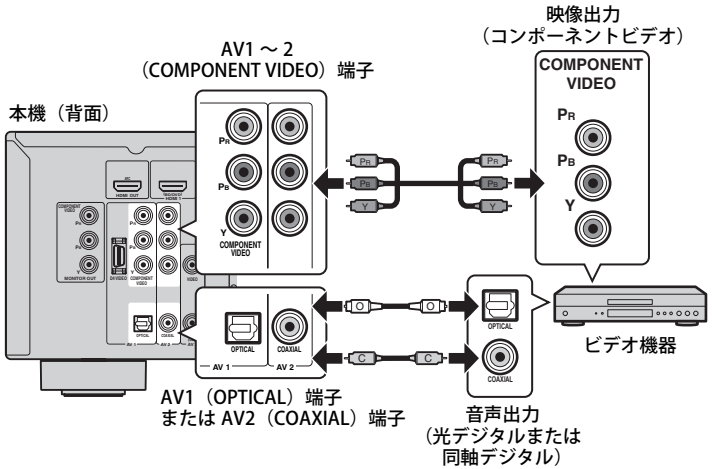
- AV1（D4 VIDEO）端子に接続したビデオ機器の映像をテレビで見るには、テレビを本機の MONITOR OUT（COMPONENT VIDEO）端子に接続する必要があります（22ページ）。

■ コンポーネントビデオ接続

コンポーネントケーブルと音声ケーブル（光デジタルまたは同軸デジタル）を使って、ビデオ機器を本機に接続します。ビデオ機器の音声出力端子により、本機側で使用する入力端子（AV1 ～ 2）が異なります。

- AV1 端子の D4 VIDEO 端子と COMPONENT VIDEO 端子には、同時に機器を接続しないでください。

ビデオ機器の出力端子		本機の入力端子
映像	音声	
コンポーネントビデオ	光デジタル	AV1（COMPONENT VIDEO ＋ OPTICAL）
	同軸デジタル	AV2（COMPONENT VIDEO ＋ COAXIAL）



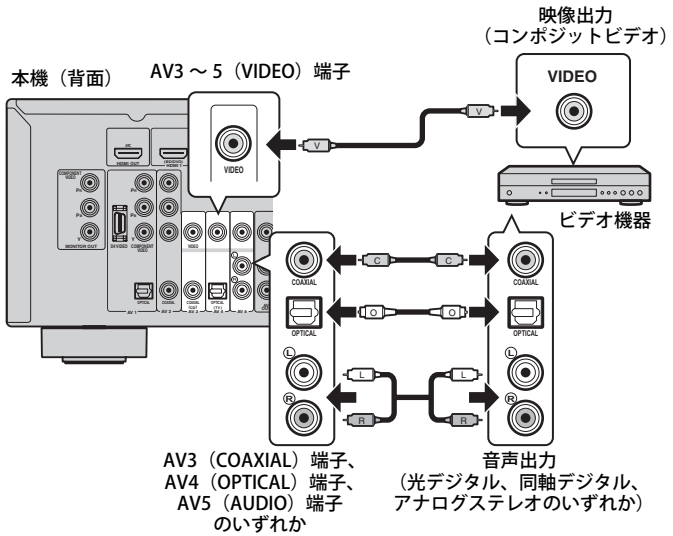
AV1 ～ 2 キーで入力を選ぶと、ビデオ機器の映像 / 音声が本機から出力されます。

- AV1 ～ 2（COMPONENT VIDEO）端子に接続したビデオ機器の映像をテレビで見るには、テレビを本機の MONITOR OUT（COMPONENT VIDEO）端子に接続する必要があります（22ページ）。

■ ビデオ（コンポジット）接続

映像用ピンケーブルと音声ケーブル（同軸デジタル、光デジタル、ステレオピンケーブルのいずれか）を使って、ビデオ機器を本機に接続します。ビデオ機器の音声出力端子により、本機側で使用する入力端子（AV3 ～ 5）が異なります。

ビデオ機器の出力端子		本機の入力端子
映像	音声	
コンポジットビデオ	同軸デジタル	AV3（VIDEO ＋ COAXIAL）
	光デジタル	AV4（VIDEO ＋ OPTICAL）
	アナログステレオ	AV5（VIDEO ＋ AUDIO）



AV3 ～ 5 キーで入力を選ぶと、ビデオ機器の映像 / 音声が本機から出力されます。

- AV3 ～ 5（VIDEO）端子に接続したビデオ機器の映像をテレビで見るには、テレビを本機の MONITOR OUT（VIDEO）端子に接続する必要があります（23ページ）。

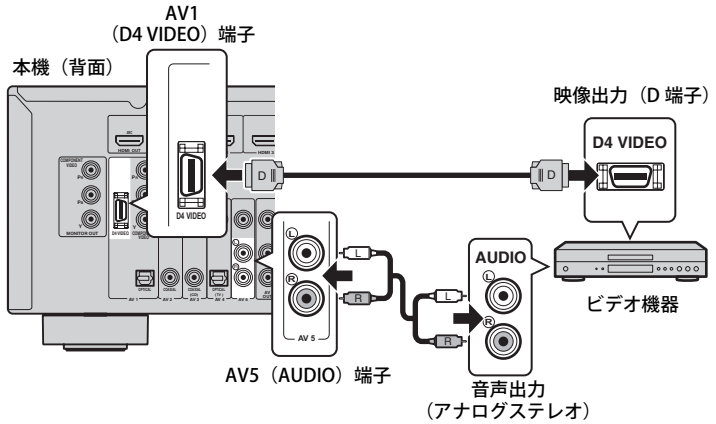
■ 入力端子（映像 / 音声）の組み合わせを変更する

本機の入力端子（映像 / 音声）の組み合わせがビデオ機器と合わない場合は、本機の入力端子の組み合わせを、ビデオ機器の出力端子にあわせて変更できます。これにより、次のような出力端子（映像 / 音声）を持つビデオ機器との接続が可能になります。

ビデオ機器の出力端子		本機の入力端子	
映像	音声	映像	音声
HDMI	光デジタル	HDMI1 ～ 4	AV1（OPTICAL） AV4（OPTICAL）
	同軸デジタル	HDMI1 ～ 4	AV2 ～ 3（COAXIAL）
	アナログステレオ	HDMI1 ～ 4	AV5（AUDIO） AUDIO1 ～ 2
D 端子	同軸デジタル	AV1（D4 VIDEO）	AV2 ～ 3（COAXIAL）
	アナログステレオ	AV1（D4 VIDEO）	AV5（AUDIO） AUDIO1 ～ 2
コンポーネントビデオ	アナログステレオ	AV1 ～ 2 （COMPONENT VIDEO）	AV5（AUDIO） AUDIO1 ～ 2

❑ 必要な設定

例として、映像は AV1（D4 VIDEO）端子、音声は AV5（AUDIO）端子に接続した場合の設定手順を説明します。



1 外部機器（テレビ、再生機器など）や電源コードの接続が完了したら、本機とテレビの電源を入れる。

2 AV1 キーで入力を「AV1」（映像を入力する端子）に切り替える。

3 OPTION キーを押す。

4 カーソルキー（△/▽）で「Audio In」を選び、ENTER キーを押す。



5 カーソルキー（◁/▷）で「AV5」（音声を入力する端子）を選ぶ。



6 OPTION キーを押す。

これで設定は完了です。

AV1 キーで入力を「AV1」に切り替えると、ビデオ機器の映像 / 音声が本機から出力されます。

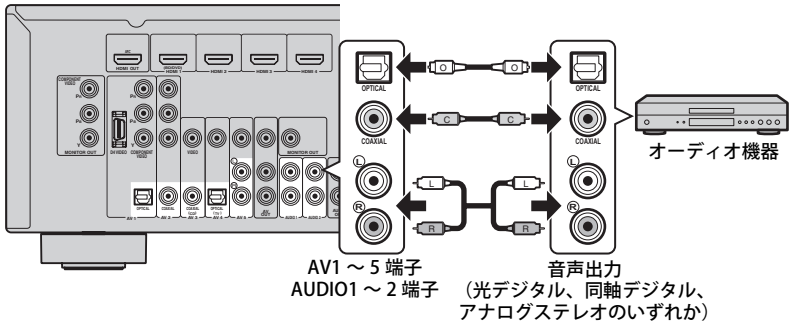
オーディオ機器を接続する（CD プレーヤーなど）

CD プレーヤー、MD プレーヤーなどのオーディオ機器を本機に接続します。

接続するオーディオ機器の音声出力端子により、接続方法を選んでください。

オーディオ機器の音声出力端子	本機の音声入力端子
光デジタル	AV1（OPTICAL） AV4（OPTICAL）
同軸デジタル	AV2 ～ 3（COAXIAL）
アナログステレオ	AV5（AUDIO） AUDIO1 ～ 2

本機（背面）

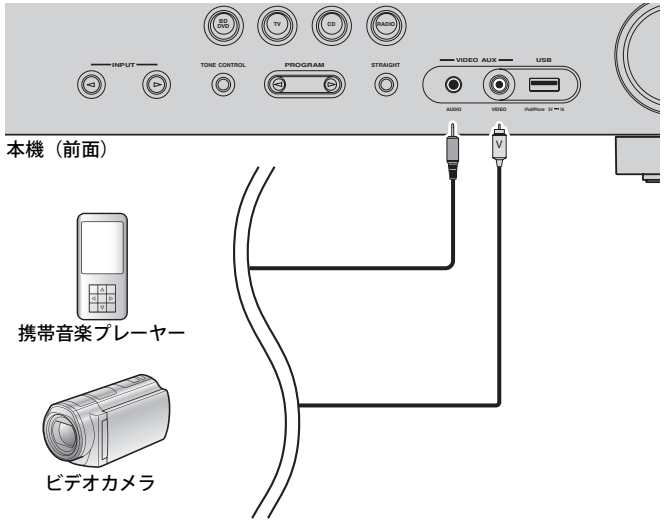


AV1 ～ 5 キーまたは AUDIO1 ～ 2 キーで入力を選ぶと、オーディオ機器の音声が本機から出力されます。

本体前面の端子に接続する

ビデオカメラや携帯音楽プレーヤーなどの機器を一時的に接続する場合は、前面の VIDEO AUX 端子を利用すると便利です。

接続する前に、再生機器を停止して、本機の音量を十分に下げてください。



V-AUX キーで入力を「V-AUX」に切り替えると、接続した機器の映像 / 音声が本機から出力されます。

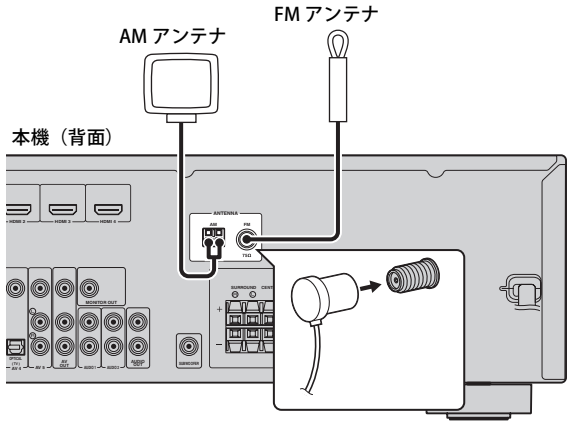
- VIDEO AUX（VIDEO）端子に接続したビデオ機器の映像をテレビで見るには、テレビを本機の MONITOR OUT（VIDEO）端子に接続する必要があります（23ページ）。
- 外部機器の映像 / 音声出力端子に応じて、適切なケーブルをご用意ください。

- iPod の接続方法については「iPod を接続する」（42ページ）、USB 機器の接続方法については「USB 機器を接続する」（46ページ）をご覧ください。
- 入力が「USB」のときは、VIDEO AUX（VIDEO）端子に入力中の映像信号が MONITOR OUT（VIDEO）端子から出力されます。

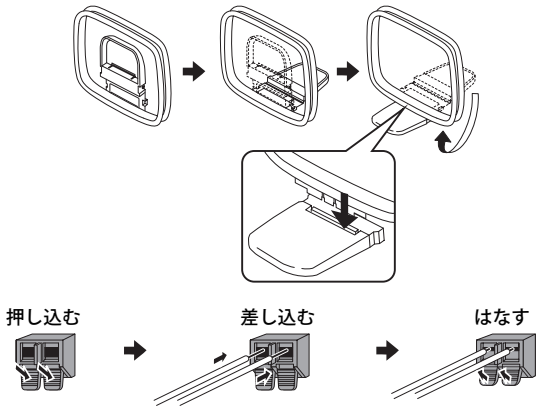
5 FM/AM アンテナを接続する

付属の FM アンテナと AM アンテナを接続します。

接続後、FM アンテナは壁に固定し、AM アンテナは水平な場所に置いてください。



AM アンテナの組立と接続

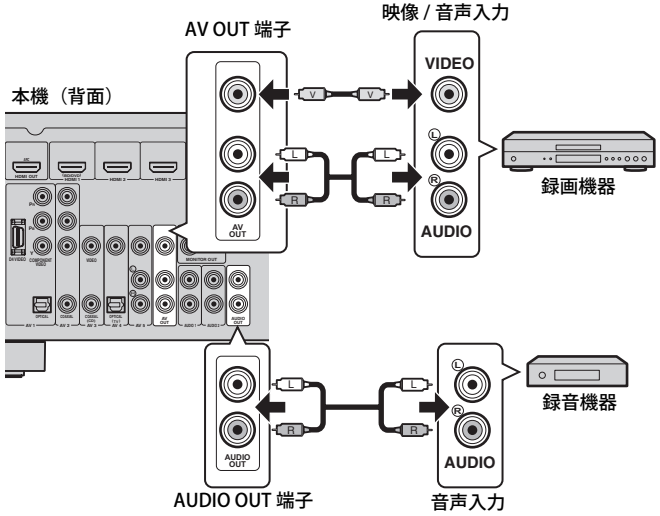


- AM アンテナのコードは、配線に必要な分だけをアンテナ本体からほどいてお使いください。
- AM アンテナのコードに極性はありません。

6 録画 / 録音機器を接続する

録画 / 録音機器を本機に接続するには、AV OUT 端子や AUDIO OUT 端子を使います。これらの端子からは、本機で選択している入力のアナログ映像やアナログ音声が出力されます。

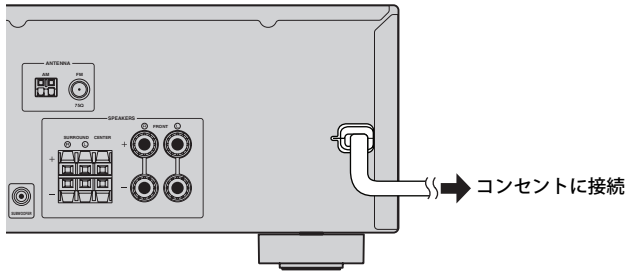
- ビデオ機器の映像 / 音声をダビングするには、ビデオ機器を本機の AV5 端子または VIDEO AUX（VIDEO/AUDIO）端子に接続してください。
- オーディオ機器の音声をダビングするには、オーディオ機器を本機の AV5 端子、AUDIO1 ～ 2 端子、VIDEO AUX（AUDIO）端子のいずれかに接続してください。
- AV OUT 端子および AUDIO OUT 端子には、録画 / 録音機器以外は接続しないでください。



7 電源コードを接続する

すべての接続が完了したら、電源コードのプラグをコンセントに差し込みます。

本機（背面）





8 スピーカー設定を自動で調整する（YPAO）

付属の YPAO 用マイクを使って、スピーカーの接続や視聴位置との距離を検出し、音量バランスや音色などのスピーカー設定を自動で調整します（YPAO：Yamaha Parametric room Acoustic Optimizer）。

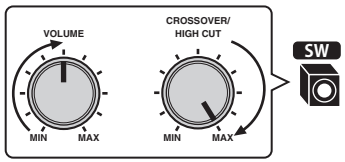
- YPAO 使用時は次のことにご注意ください。
  - テレビやスピーカーの接続が終わってから YPAO を実行してください。
  - 測定中は大きな音が出力されます。小さなお子様がいらっしゃる場合は十分にご配慮ください。また、ご近所への迷惑とならないよう夜間の使用は控えてください。
  - 測定中は音量を調節できません。
  - 測定中は部屋を静かに保ってください。
  - ヘッドホンは接続しないでください。

1 RECEIVER ⏻ キーで本機の電源を入れる。

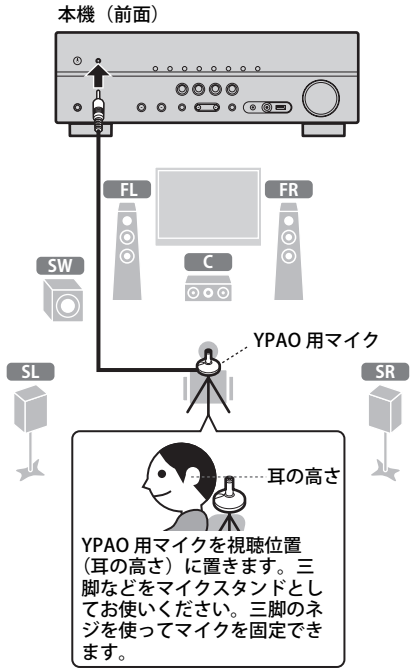
2 テレビの電源を入れ、テレビ側の入力を本機（HDMI OUT 端子）からの映像に切り替える。

- テレビ画面を見ながら操作するには、テレビと本機を HDMI で接続する必要があります。それ以外の方法で接続している場合は、前面ディスプレイを見ながら操作してください。

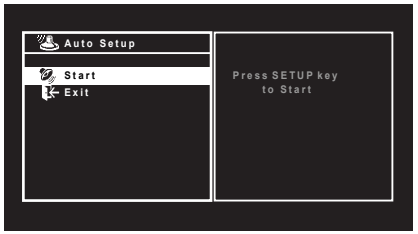
3 サブウーファーの電源を入れ、音量を半分に調節する。クロスオーバー周波数を調節できる場合は最大にする。

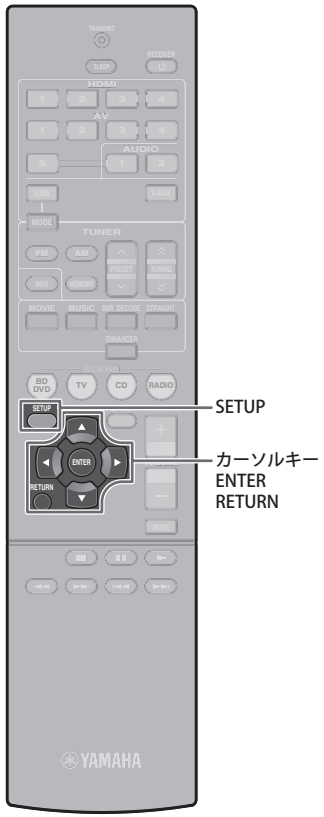


4 付属の YPAO 用マイクを視聴位置（耳の高さ）に置き、前面の YPAO MIC 端子に接続する。



テレビに次の画面が表示されます。





- 操作を中止するには、測定前に YPAO 用マイクを取り外すか、カーソルキーで「Exit」を選び ENTER キーを押します。

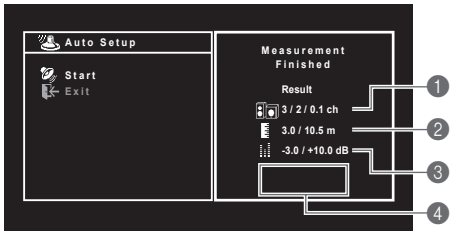
- 測定中は部屋の隅に移動するか退出して、スピーカーと YPAO 用マイクの間を遮らないようにしてください。所要時間は約 3 分です。

5 測定を始めるには、カーソルキーで「Start」を選び、SETUP キーを押す。

10 秒後に測定が始まります。すぐに測定を始める場合は、ENTER キーを押します。

- 測定を一時中断するには、RETURN キーを押します。その後「エラーメッセージ」（31ページ）の操作を実行してください。

測定が終わると、テレビに次の画面が表示されます。



❶ スピーカーの本数（前方 / 後方 / サブウーファー）

❷ スピーカーの距離
（最も近いスピーカー / 最も遠いスピーカー）

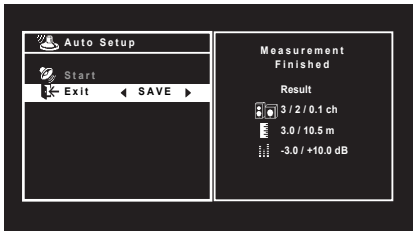
❸ スピーカーの音量補正範囲

❹ 警告メッセージ（発生時のみ）

- エラーメッセージ（E-1 など）や警告メッセージ（W-1 など）が表示された場合は「エラーメッセージ」（31ページ）または「警告メッセージ」（32ページ）をご覧ください。

- 警告メッセージの対象になっているスピーカーは、前面ディスプレイのスピーカー表示が点滅します。
- （前面ディスプレイでの操作時）複数の警告メッセージが生じた場合は、カーソルキー（△/▽）で表示を切り替えて確認してください。

6 測定結果を保存するには、カーソルキー（◁/▷）で「SAVE」を選び、ENTER キーを押す。



補正されたスピーカー設定が反映されます。

- 測定結果を保存せずに終了するには、「CANCEL」を選びます。

7 YPAO 用マイクを本機から取り外す。

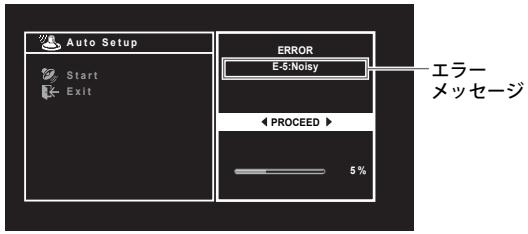
これでスピーカー設定は完了です。

注意

- YPAO 用マイクは熱に弱いため、高温になる場所（AV 機器の上など）や直射日光が当たる場所を避けて保管してください。

エラーメッセージ

測定中にエラーメッセージが表示された場合は、原因を解決してから YPAO を再度実行してください。



テレビ画面



前面ディスプレイ

■ エラーメッセージ表示後の操作

1 エラーメッセージの内容を確認し、ENTER キーを押す。

2 カーソルキー（◁/▷）で目的の項目を選ぶ。

測定を終了する場合：

① 「EXIT」を選び、ENTER キーを押す。

② カーソルキー（△/▽）で「Exit」を選び、ENTER キーを押す。

③ YPAO 用マイクを本機から取り外す。

再測定する場合：

「RETRY」を選び、ENTER キーを押す。

現在の測定を続ける場合（E-5、E-9 のみ選択可）：

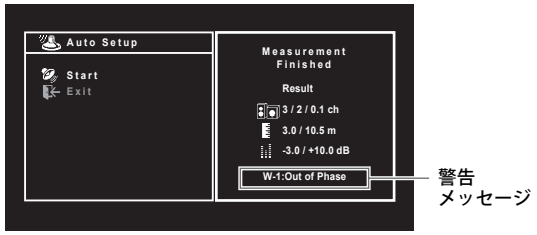
「PROCEED」を選び、ENTER キーを押す。

エラーメッセージ	原因	対策
E-1:No Front SP **（E-1:NO FRNT SP）**	フロントスピーカーを検出できない。	YPAO を終了してから、本機の電源を切り、該当スピーカーの接続を確認してください。
E-2:No Sur. SP **（E-2:NO SUR SP）**	サラウンドスピーカーの片側を検出できない。	
E-5:Noisy **（E-5:NOISY）**	雑音が大きいため測定できない。	部屋が静かになってから再測定してください。「PROCEED」を選んだ場合は、雑音を検出しても無視する条件で再測定します。
E-7:No MIC **（E-7:NO MIC）**	測定中に YPAO 用マイクが外れた。	YPAO 用マイクを YPAO MIC 端子にしっかりと接続してから、再測定してください。
E-8:No Signal **（E-8:NO SIGNAL）**	YPAO 用マイクがテストトーンを検出できない。	YPAO 用マイクを YPAO MIC 端子にしっかりと接続してから、再測定してください。このエラーが頻繁に表示される場合は、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。
E-9:User Cancel **（E-9:CANCEL）**	測定が中断された。	目的に応じて、再測定するか YPAO を終了してください。
E-10:Internal Err. **（E-10:INTERNAL）**	内部エラーが発生した。	YPAO を終了してから、本機の電源を入れ直してください。このエラーが頻繁に表示される場合は、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。

- カッコ内の表記は前面ディスプレイの表示です。

警告メッセージ

測定後に警告メッセージが表示されていても、測定結果を保存できます。
ただし、最適なスピーカー設定で使用するには、原因を解決してから YPAO を再度実行することをおすすめします。



テレビ画面

警告メッセージの対象スピーカーが点滅



前面ディスプレイ

■ 警告メッセージ表示後の操作

1 警告メッセージの内容を確認し、ENTER キーを押す。

2 カーソルキー（◁/▷）で目的の項目を選ぶ。

測定結果を保存する場合：

「SAVE」を選び、ENTER キーを押す。

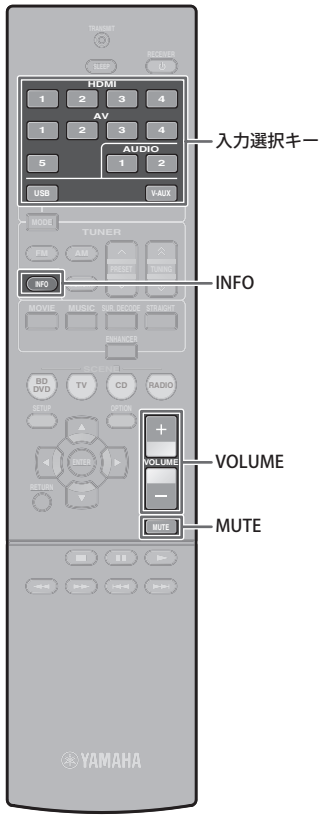
測定結果を保存しない場合：

「CANCEL」を選び、ENTER キーを押す。

3 YPAO 用マイクを本機から取り外す。

警告メッセージ	原因	対策
W-1:Out of Phase（**W-1:PHASE**）	スピーカーの極性（＋と－）が逆に接続されている可能性がある。	該当スピーカーのケーブル接続（＋と－）を確認してください。正しく接続されていない場合は、YPAO を終了してから、本機の電源を切り、スピーカーケーブルを接続し直してください。スピーカーの種類や設置環境によっては、正しく接続されていてもこのメッセージが表示されることがあります。
W-2:Over Distance（**W-2:DISTANCE**）	スピーカーと視聴位置の距離が 24m を超えているため、正確に補正できない。	YPAO を終了してから、本機の電源を切り、該当スピーカーを視聴位置から 24m 以内に設置してください。
W-3:Level Error（**W-3:LEVEL**）	スピーカー間の音量差が大きすぎるため、正確に補正できない。	各スピーカー間の使用環境やケーブル接続（＋と－）、サブウーファーの音量が適切かどうか確認してください。問題がある場合は、YPAO を終了してから、本機の電源を切り、スピーカーの接続や配置を直してください。なるべく同じスピーカー、または性能が似ているスピーカーをお使いください。

• カッコ内の表記は前面ディスプレイの表示です。



再生する

再生の基本操作

1 本機に接続した外部機器（テレビ、BD/DVD レコーダーなど）の電源を入れる。

2 入力選択キーで入力を選ぶ。

3 外部機器で再生を開始する、またはラジオ局を選ぶ。

各機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

以下の機能については、本書の該当ページをご覧ください。

- FM/AM ラジオを聴く（39ページ）
- iPod の曲を再生する（42ページ）
- USB 機器の曲を再生する（46ページ）

4 VOLUME キーで音量を調節する。

- MUTE キーで消音します。もう一度押すと消音を解除します。
- オプションメニュー、または本体前面の TONE CONTROL キーで高音域と低音域のバランスを調整できます（50ページ）。

前面ディスプレイの表示を切り替える

1 INFO キーで表示項目を選ぶ。

キーを押すたびに、表示項目が切り替わります。

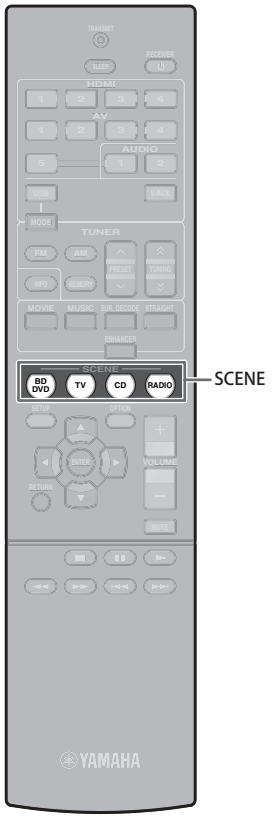


約 3 秒後に該当する情報が表示されます。



- 入力により選択可能な項目が異なります。また表示項目は入力グループごとに記憶されます。
- 曲名やアーティスト名などの日本語は表示されません。

入力グループ	項目
HDMI1 ～ 4 **AV1 ～ 5** **AUDIO1 ～ 2** **V-AUX**	Input（入力名）、DSP Program（音場プログラム名など）、Audio Decoder（デコーダー名）
USB	Song（曲名）、Artist（アーティスト名）、Album（アルバム名）、DSP Program（音場プログラム名など）、Audio Decoder（デコーダー名） **※iPod をシンプル再生で操作時：Input（入力名）、DSP Program（音場プログラム名など）、Audio Decoder（デコーダー名）**
TUNER	Frequency（周波数）、DSP Program（音場プログラム名など）、Audio Decoder（デコーダー名）



入力と設定をワンタッチで切り替える（シーン機能）

シーン機能を使うと、入力選択と同時に、あらかじめ登録した内容（音場プログラム、ミュージックエンハンサーの有効 / 無効）をワンタッチで選ぶことができます。

1 **SCENE キーを押す。**

該当 SCENE キーに登録されている内容が呼び出されます。

本機がスタンバイ時は、電源も入ります。

各 SCENE キーの登録内容（初期値）は以下のとおりです。

SCENE キー	入力	音場プログラム	ミュージックエンハンサー	シーン連動
BD/DVD	HDMI1	MOVIE (Sci-Fi)	Off	On
TV	AV4	STRAIGHT	On	On
CD	AV3	STRAIGHT	Off	Off
RADIO	TUNER	MUSIC (5ch Stereo)	On	Off

- **シーン連動を使うと、シーン選択時に HDMI で本機に接続したテレビの電源を入れたり、外部機器の再生を開始したりすることができます。シーン連動を有効にするには、セットアップメニューの「SCENE」（59ページ）で該当シーンの連動設定を「On」にしてください。**

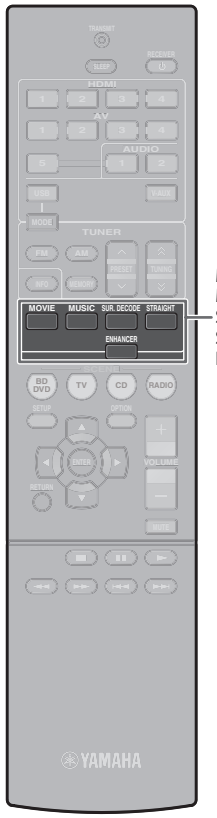
シーン機能の登録内容を変更する

1 **以下の操作を行って、SCENE キーに登録したい状態にする。**

- 入力を選ぶ（33ページ）
- 音場プログラムを選ぶ（35ページ）
- ミュージックエンハンサーを有効 / 無効にする（38ページ）

2 **前面ディスプレイに「SET Complete」と表示されるまで、登録先の SCENE キーを押し続ける。**





好みのサウンドを選ぶ

本機には、さまざまな音場プログラムやサラウンドデコーダーが備わっています。再生音に音場効果を加えたい場合や、ステレオ再生で音声を楽しみたい場合など、視聴する内容に応じて、お好みのサウンドを選んでください。

映像コンテンツに適した音場プログラムを選ぶ（36ページ）

MOVIE キーを繰り返し押す。

音楽に適した音場プログラムまたはステレオ再生を選ぶ（36ページ）

MUSIC キーを繰り返し押す。

サラウンドデコーダーを選ぶ（38ページ）

SUR. DECODE キーを繰り返し押す。

ストレートデコードに切り替える（37ページ）

STRAIGHT キーを押す。

ミュージックエンハンサーを有効にする（38ページ）

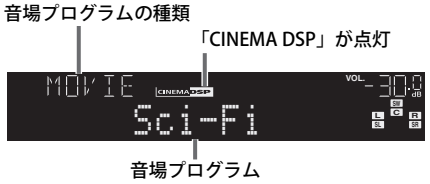
ENHANCER キーを押す。

- 本体前面の PROGRAM キーでも、音場プログラムやサラウンドデコーダーを選べます。
- 音場プログラムやサラウンドデコーダーは入力ごとに記憶されます。
- サンプリング周波数が 96kHz を超える音声や、DTS Express の再生時は、自動的にストレートデコード（37ページ）に切り替わります。
- 本体前面のスピーカー表示（9ページ）で、音声出力中のスピーカー端子を確認できます。

音場効果を楽しむ（シネマ DSP）

CINEMA DSP

本機には、ヤマハ独自の音場技術（シネマ DSP）を使った各種の音場プログラムが備わっています。これにより、映画館やコンサートホールさながらのリアルな音場を簡単に再現できます。



- DTS-HD Master Audio または DTS-HD High Resolution Audio の音声再生時は、通常の DTS フォーマットでデコードされます。

- オプションメニューの「DSP Level」（50ページ）で、音場プログラムのエフェクト量（音場効果）を調節できます。

■ 映像コンテンツに適した音場プログラム（MOVIE）

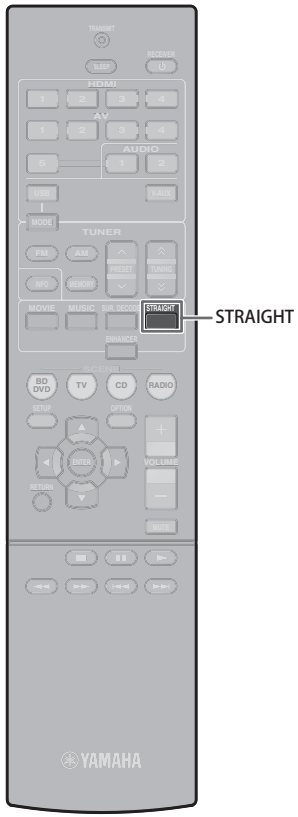
映画、テレビ番組、ゲームなど、映像コンテンツに適した音場プログラムが含まれています。

Standard（スタンダード）	Dolby Digital、DTS、AAC などのマルチチャンネル音声のオリジナル定位を乱さず、サラウンドの包囲感を重視した音場です。「理想的な映画館」がコンセプトで、周囲から美しい響きで包み込みます。
Spectacle（スペクタクル）	壮大なスケール感を演出するスペクタクルな音場です。シネスコサイズのワイド画面に合う広大な空間と微小な効果音から迫力の大音響まで、ダイナミックレンジの広さが特長です。
Sci-Fi（サイファイ）	最新 SFX 映画の緻密なサウンドを鮮やかに描き分ける抜けの良い音場です。セリフ、効果音、BGM の明快な分離感を保ちつつ各空間を鮮やかに再現します。
Adventure（アドベンチャー）	アクション＆アドベンチャー映画に最適です。響きを抑え、左右の広がり感を重視した力強い空間を再現します。奥行は浅めで各チャンネルのセパレーションや音の明瞭度を保ちつつ、クリアで力強い空間を再現します。
Drama（ドラマ）	シリアスなドラマからミュージカルやコメディまで、幅広いジャンルの映画に対応する落ち着いた響きが特長です。控えめな響きでありながら適度な立体感を持ち、セリフの明瞭度とセンター定位を軸に効果音や BGM を柔らかな響きで立体的に再現します。長時間聴いていても疲れません。
Mono Movie（モノムービー）	往年のモノラル映画を当時の映画館の雰囲気で楽しめます。広がりと適度な残響が付加され、奥行がある心地よい空間が再現されます。
Sports（スポーツ）	スポーツ中継やスタジオバラエティ番組がライブ感豊かに楽しめます。スポーツ中継では解説者やアナウンサーの声はセンターに定位し、歓声など場内の雰囲気は適度な空間の中で周囲に広がり臨場感を体感できます。
Action Game（アクションゲーム）	カーレースや格闘ゲームなどのアクションゲームに合います。さまざまな効果を重視することで再現されたリアリティにより、ゲームの中にいるような感覚が体感できます。ミュージックエンハンサーと組み合わせることでよりダイナミックで力強い音場効果が体感できます。
Roleplaying Game（ロールプレイングゲーム）	RPG やアドベンチャーゲームなどに合わせた音場です。BGM や効果音に深みを与えることで、さまざまな場面を自然に、よりリアルに再現します。ミュージックエンハンサーと組み合わせることでよりクリアで奥行きのある音場効果が体感できます。

■ 音楽に適した音場プログラム / ステレオ再生（MUSIC）

音楽鑑賞に適した音場プログラムが含まれています。ステレオ再生も選べます。

Hall in Munich（ミュンヘン）	内装材にシックな木の内張りが使われたミュンヘンにある 2500 席程度のコンサートホールです。繊細な美しい響きが豊かに広がり、落ち着いた雰囲気を持っています。座席は 1 階の中央左寄りです。
Hall in Vienna（ウィーン）	約 1700 席のウィーンの伝統的シューボックス型のコンサートホールです。周囲の柱や彫刻により全方向からの複雑な反射音を生み出しています。豊かな響きが特長です。
Chamber（チェンバー）	宮廷の大広間のような天井の高い比較的広めの空間で、宮廷音楽や室内楽に適した心地よい残響が特長です。
Cellar Club（セラークラブ）	天井の低いアットホームなライブハウスです。小さなステージのすぐ前にいるような、リアルでライブな音場で、強い響きが特長です。
The Roxy Theatre（ロキシーシアター）	ロサンゼルスにあるロック系ライブハウスで、最大で 460 席ほどあります。中央左寄りの客席です。
The Bottom Line（ボトムライン）	かつてニューヨークに存在したライブハウス「ザ・ボトム・ライン」のステージ正面の音場です。フロアは 300 席ある左右に幅広い客席で占められ、明瞭な響きが特長です。
Music Video（ミュージックビデオ）	ポップス・ロック・ジャズなどのライブ映像をコンサート会場のイメージで楽しめます。ステージ上のボーカルやソロ楽器のリアル感、リズム楽器のノリを重視したプレゼンス音場、広大なライブ会場の空間を再現するサラウンド音場で、ホットなライブ空間に浸れます。
2ch Stereo（2ch ステレオ）	ステレオ前方からのステレオ音声が楽しめます。マルチチャンネル信号が入力されると、2 チャンネルにダウンミックスされ、フロントスピーカーから出力されます（シネマ DSP は使用しません）。
5ch Stereo（5ch ステレオ）	ステレオ後方からも直接音が聴け、広いエリアで楽しめる効果が特長です。最大 5 つのスピーカーから音が出力され、ホームパーティーの BGM に最適です。



■ サラウンドスピーカーなしで音場効果を楽しむ（バーチャルシネマ DSP）

サラウンドスピーカーが接続されていない状態で音場プログラム（2ch Stereo、5ch Stereo 以外）を選ぶと、本機は前方のスピーカーだけで仮想スピーカーを構築し、自動的に後方の音場を創り出します。

音場効果をかけずに再生する

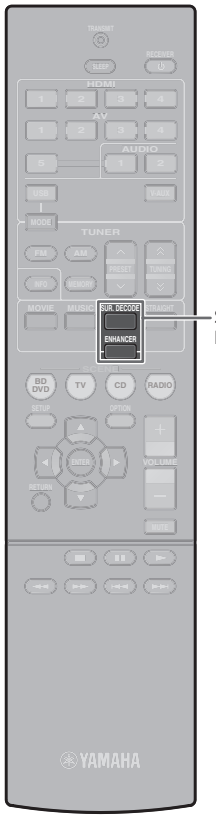
■ オリジナルチャンネルでの再生を楽しむ（ストレートデコード）

ストレートデコードを使うと、入力ソースに含まれている各チャンネルの音声が該当スピーカーからそのまま出力されます。CD などの 2 チャンネルソースの場合は、フロントスピーカーからステレオ音声で再生します。マルチチャンネルソースの場合は、音場効果をかけずにマルチチャンネル音声で再生します。

1 **STRAIGHT キーを押す。**

キーを押すたびに、ストレートデコードが有効 / 無効になります。





■ マルチチャンネル再生を楽しむ（サラウンドデコーダー）

サラウンドデコーダーを使うと、音場効果をかけずに 2 チャンネルソースをマルチチャンネル音声で再生します。マルチチャンネルソースが入力されている場合は、ストレートデコードと同様に機能します。

各デコーダーについて詳しくは、「用語 / 技術解説」（71ページ）をご覧ください。

1 SUR.DECODE キーでサラウンドデコーダーを選ぶ。

キーを押すたびにデコーダーが切り替わります。



Pro Logic	Dolby Pro Logic デコーダーです。すべてのソースに適しています。
PLII Movie	Dolby Pro Logic II デコーダーです。映画鑑賞に適しています。
PLII Music	Dolby Pro Logic II デコーダーです。音楽鑑賞に適しています。
PLII Game	Dolby Pro Logic II デコーダーです。ゲームに適しています。
Neo:6 Cinema	映画鑑賞に適した DTS Neo:6 デコーダーです。
Neo:6 Music	音楽鑑賞に適した DTS Neo:6 デコーダーです。

- セットアップメニューの「DSP Parameter」（60ページ）で、サラウンドデコーダーの設定を変更できます。

圧縮音源をダイナミック再生する（ミュージックエンハンサー）

compressed music ENHANCER

ミュージックエンハンサーを使うと、音に深みと広がりを加え、圧縮前の原音のようなダイナミックな再生音を楽しめます。この機能は音場プログラムと併用できます。

1 ENHANCER キーを押す。

キーを押すたびに、ミュージックエンハンサーが有効 / 無効になります。

「ENHANCER」が点灯



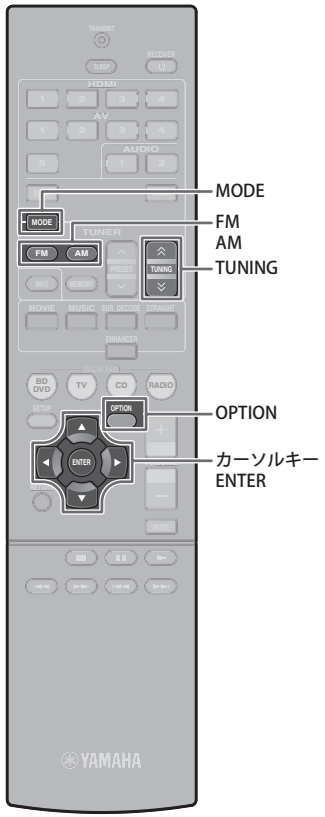
- ミュージックエンハンサーは、以下の音源には機能しません。
  - サンプリング周波数が 48kHz を超える音声
  - HD オーディオなど高解像度のストリーム音声

- オプションメニューの「Enhancer」（51ページ）でも、ミュージックエンハンサーを有効 / 無効にできます。

ヘッドホンでサラウンドを楽しむ（サイレントシネマ）

SILENT CINEMA

PHONES 端子にヘッドホンを接続して、音場プログラムやサラウンドデコーダーを選べば、ステレオヘッドホンでもマルチチャンネルスピーカーシステムのようなサラウンド感や音場効果を楽しむことができます。



FM/AM ラジオを聴く

ラジオの選局をするには、周波数を指定するか、登録したラジオ局を呼び出します。

- ラジオの受信感度が悪いときは、アンテナの向きを調節してください。

周波数を指定して選局する

1 FM キーまたは AM キーで FM/AM を切り替える。

入力が「TUNER」に切り替わり、選択中の周波数が表示されます。



2 TUNING キーで周波数を切り替えます。

約 1 秒押し続けると、自動で選局します。



ラジオ放送受信中は「TUNED」が点灯します。

ステレオ放送の場合は「STEREO」も点灯します。

- FM ラジオのステレオ（Stereo）/ モノラル（Mono）を切り替えるには、MODE キーを押します。FM ラジオ局の受信が不安定なときに、モノラル放送を選ぶと改善される場合があります。
- ラジオを聴きながら、外部機器の映像を楽しむことができます。映像を楽しむには、オプションメニューの「Video Out」（52ページ）で外部機器を接続している入力端子を選んでください。

お気に入りのラジオ局を登録する（プリセット）

最大 40 局のラジオ局を登録できます。登録したラジオ局は、プリセット番号を選ぶだけで簡単に呼び出せます。

■ ラジオ局を自動で登録する（オートプリセット）

信号の強い FM ラジオ局を自動でプリセット番号に登録します（最大 40 局）。

- AM ラジオ局は手動で登録してください（40ページ）。

1 FMキーまたはAMキーで入力を「TUNER」に切り替える。

2 OPTION キーを押す。

3 カーソルキーで「Auto Preset」を選ぶ。



4 オートプリセットを始めるには、ENTER キーを押す。

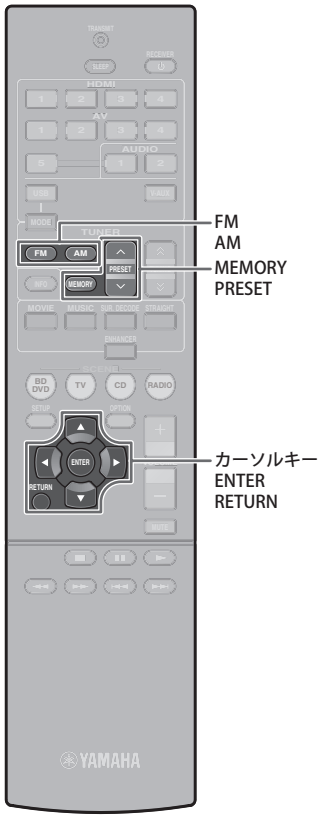
5 秒後にオートプリセットが始まります。すぐにオートプリセットを始める場合は、再度 ENTER キーを押します。

オートプリセット中は「SEARCH」と表示



最初に登録するプリセット番号

再生する



- 最初に登録するプリセット番号を指定する場合は、手順 4 を実行後 5 秒以内（「READY」が表示中）に PRESET キーまたはカーソルキー（△/▽）でプリセット番号を選び、ENTER キーを押します（または 5 秒間待ちます）。
- オートプリセットを中止するには、RETURN キーを押します。

オートプリセットが終わると「FINISH」と表示され、オプションメニューが自動的に終了します。



■ ラジオ局を手動で登録する

ラジオ局を手動で選んでプリセット番号に登録します。

1 「周波数を指定して選局する」（39ページ）の手順で、登録したいラジオ局を受信する。

2 MEMORY キーを 2 秒以上押し続ける。

初回はプリセット番号「01」に、2 回目以降は前回登録したプリセット番号の次の空き番号に登録されます。



登録先のプリセット番号

- 登録先のプリセット番号を指定するには、登録したいラジオ局を受信中に MEMORY キーを一度押します。PRESET キーでプリセット番号を選び、もう一度 MEMORY キーを押します。



「Empty」（空き）または現在登録されている周波数

■ 登録したラジオ局を呼び出す

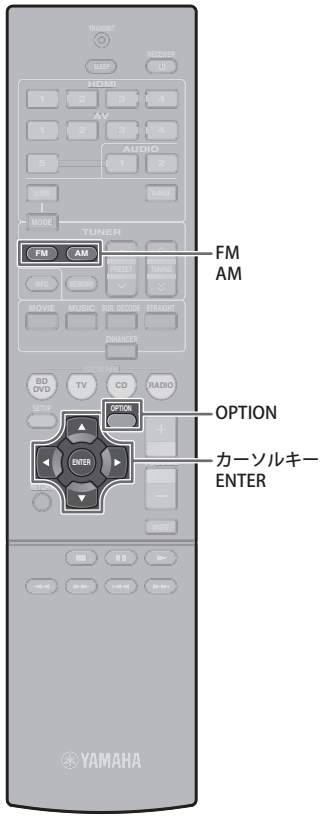
プリセット番号に登録されているラジオ局（プリセット局）の中から、聴きたいラジオ局を選びます。

1 FMキーまたはAMキーで入力を「TUNER」に切り替える。

2 PRESET キーでプリセット局を選ぶ。



- ラジオ局が 1 つも登録されていない場合は、「No Presets」と表示されます。



■ ラジオ局の登録を解除する

プリセット番号に登録されているラジオ局（プリセット局）の登録を解除します。

1 FMキーまたはAMキーで入力を「TUNER」に切り替える。

2 OPTION キーを押す。

3 カーソルキーで「Clear Preset」を選び、ENTER キーを押す。



4 カーソルキー（△/▽）で登録を解除するプリセット番号を選び、ENTER キーを押す。



登録を解除するプリセット番号

登録が解除されると「Cleared」と表示され、次に登録されているプリセット番号が表示されます。



5 別のプリセット番号の登録を解除するには、手順 4 を繰り返す。

6 終了するには、OPTION キーを押す。

iPod の曲を再生する

iPod 付属の USB ケーブルを使って、iPod の曲を本機で再生します。

- iPod の種類やソフトウェアのバージョンにより、一部の機能が使えない場合があります。
- iPod の映像を再生するには、Apple コンポジット AV ケーブル（別売）が必要です。ケーブルの USB およびコンポジットビデオプラグを、本機の USB 端子および VIDEO AUX（VIDEO）端子に接続してください。また、本機とテレビを映像用ピンケーブルで接続してください（23ページ）。

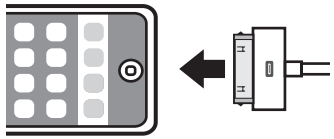
対応 iPod（2012 年 1 月現在）

- iPod touch、iPod nano（第 2 ～ 6 世代）、iPod classic
- iPhone 4S、iPhone 4、iPhone 3GS、iPhone 3G、iPhone

iPod を接続する

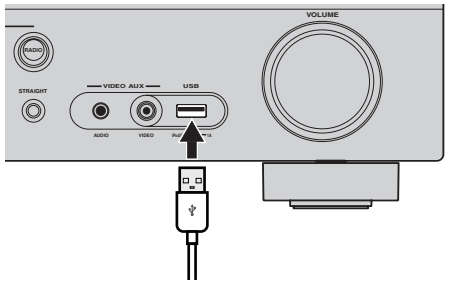
iPod 付属の USB ケーブルを使って、iPod を本機に接続します。

1 USB ケーブルを iPod に接続する。



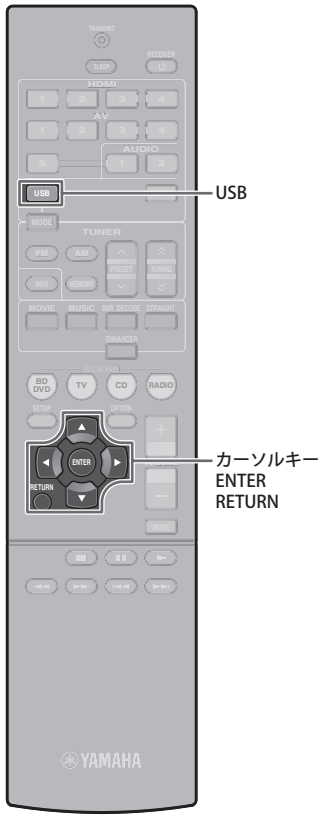
2 USB ケーブルを USB 端子に接続する。

本機（前面）





- 本機の電源が入っているときは iPod が充電されます。iPod を接続したまま本機をスタンバイにした場合は、そのまま充電を続けます（最大 4 時間）。



iPod の曲を選ぶ

iPod の曲を選んで、再生を始めます。

ここではテレビ画面を使った iPod の操作方法を説明します。

- iPod のメニューをテレビ画面に表示するには、テレビと本機を HDMI で接続する必要があります。それ以外の方法で接続している場合は、前面ディスプレイを見ながら操作するか、シンプル再生（44ページ）に切り替えて iPod 本体で操作してください。
- 本機が表示できない文字は、「_」（アンダーバー）で表示されます。

1 USB キーで入力を「USB」に切り替える。

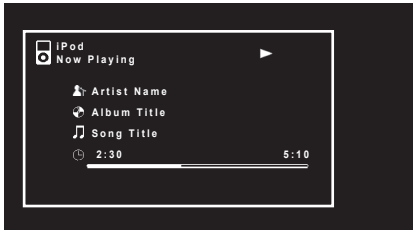
テレビにブラウズ画面が表示されます。



- iPod 側で再生状態が続いている場合は、再生画面が表示されます。

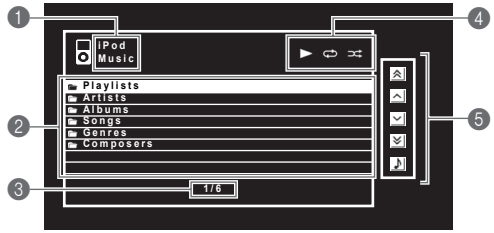
2 カーソルキーでコンテンツを選び、ENTER キーで確定する。

曲を選ぶと再生が始まり、再生画面が表示されます。



- 1 つ前の画面に戻るには、RETURN キーを押します。
- 再生中にブラウズ画面を表示するには、カーソルキー（◁）を押します。
- iPod 本体で操作するには、シンプル再生（44ページ）に切り替えます。

■ ブラウズ画面



❶ リスト名

❷ コンテンツリスト

iPod のコンテンツ一覧が表示されます。カーソルキーでコンテンツを選び、ENTER キーで確定します。

❸ コンテンツ番号 / 総数

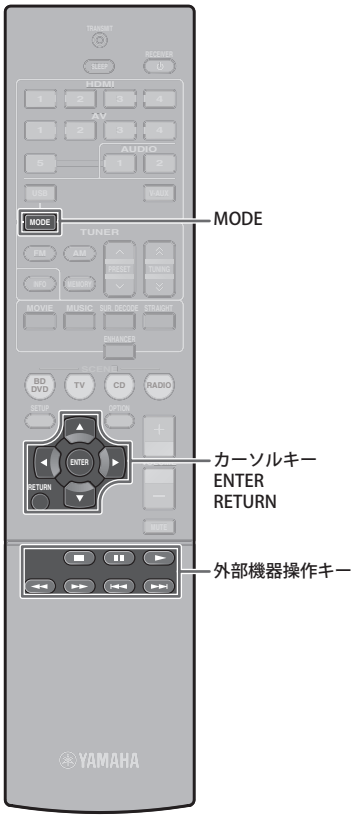
❹ ステータス表示

リピート再生 / シャッフル再生の設定（45ページ）、および再生状態（再生 / 一時停止など）が表示されます。

❺ 操作メニュー

カーソルキーでアイコンを選び、ENTER キーで実行します。

アイコン	説明
⏫	10 ページ上のリストに切り替えます。
⏶	1 ページ上のリストに切り替えます。
⏷	1 ページ下のリストに切り替えます。
⏬	10 ページ下のリストに切り替えます。
♪	再生画面を表示します。



■ 再生画面



❶ ステータス表示

リピート再生 / シャッフル再生の設定（45ページ）、および再生状態（再生 / 一時停止など）が表示されます。

❷ 再生情報

アーティスト名、アルバム名、曲名、再生時間 / 曲の長さが表示されます。

次のリモコンキーで再生を操作します。

外部機器操作キー	説明
►	一時停止を解除して、再生を始めます。
■	再生を停止します。
▮▮	再生を一時停止します。
⏮ / ⏭	再生中の曲の先頭（連続で押すと前の曲）/ 次の曲にスキップします。
◄◄ / ►►	押し続けている間、曲を巻き戻し / 早送りします。

■ iPod 本体またはリモコンで操作する（シンプル再生）

1 MODE キーでシンプル再生に切り替える。

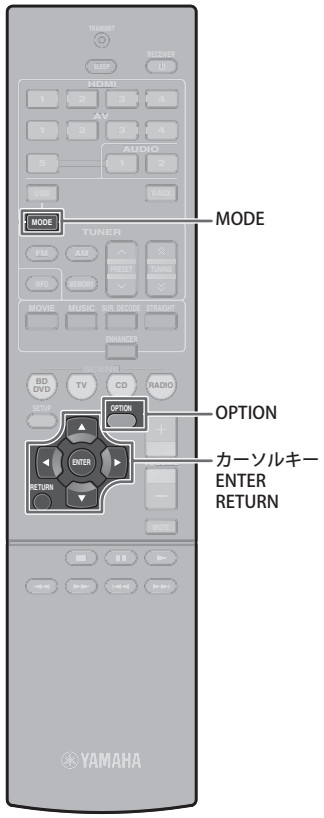
テレビの表示が消えて、iPod で操作可能になります。

テレビの表示（ブラウズ画面 / 再生画面）に戻すには、もう一度 MODE キーを押します。

2 iPod 本体またはリモコンでコンテンツを選び、再生を始める。

使用できるリモコンキー		説明
カーソルキー		コンテンツを選びます。
ENTER キー		選択を確定します。
RETURN キー		1 つ前の画面に戻ります。
外部機器操作キー	► / ▮▮	再生を始めます、または再生を一時停止します。
	■	再生を停止します。
	⏮ / ⏭	再生中の曲の先頭（連続で押すと前の曲）/ 次の曲にスキップします。
	◄◄ / ►►	押し続けている間、曲を巻き戻し / 早送りします。

再生する



■ リピート再生 / シャッフル再生

iPod のリピート再生およびシャッフル再生を設定します。

- シンプル再生で操作中は、iPod 側で直接設定するか、MODE キーを押してテレビの表示に戻してから以下の手順を行ってください。

1 入力に「USB」が選ばれている状態で、OPTION キーを押す。

2 カーソルキーで「Shuffle」または「Repeat」を選び、ENTER キーを押す。

- メニュー操作中、1 つ前の画面に戻るには RETURN キーを押します。

3 カーソルキー（◁/▷）で設定値を選ぶ。

項目	設定値	説明
Shuffle	Off	シャッフル再生を無効にする。
	Songs	曲をランダムに再生する。 テレビ画面に「⤮」が表示されます。
	Albums	アルバム単位でランダムに再生する。 テレビ画面に「⤮」が表示されます。
Repeat	Off	リピート再生を無効にする。
	One	現在の曲を繰り返し再生する。 テレビ画面に「🔁」が表示されます。
	All	現在のアルバムを繰り返し再生する。 テレビ画面に「🔁」が表示されます。

4 終了するには、OPTION キーを押す。



USB 機器の曲を再生する

USB 機器に保存されている音楽ファイルを本機で再生します。お使いの USB 機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

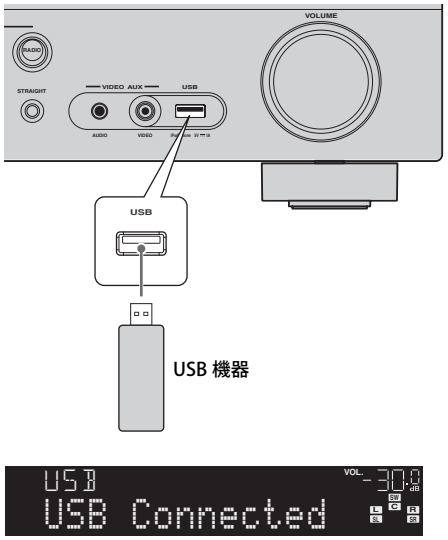
本機は、FAT16/FAT32 フォーマットの USB マスストレージクラスの機器に対応しています（USB ハードディスクを除く）。

- WAV（PCM フォーマットのみ）、MP3、WMA、MPEG-4 AAC ファイルに対応しています。
- 48kHz までのサンプリング周波数に対応しています。
- USB 機器のメーカーやモデルにより、一部の機能が使えない場合があります。

USB 機器を接続する

1 USB 機器を USB 端子に接続する。

本機（前面）



- ファイル数が多いと読み込みに時間がかかることがあります。この場合、前面ディスプレイに「Loading...」と表示されます。

USB 機器の曲を選ぶ

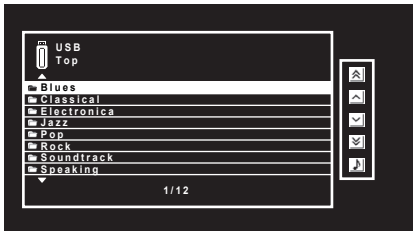
USB 機器の曲を選んで、再生を始めます。

ここではテレビ画面を使った USB 機器の操作方法を説明します。

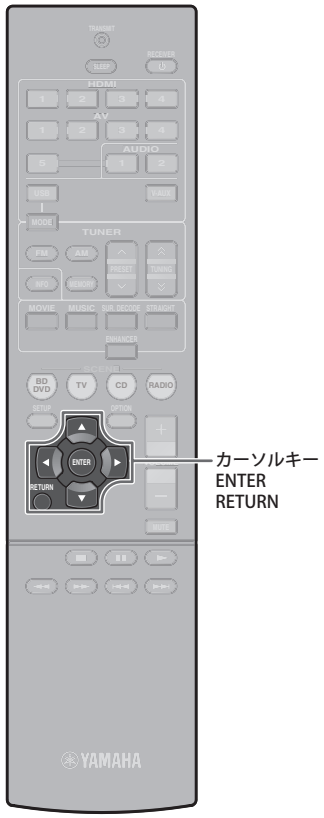
- USB 機器のメニューをテレビ画面に表示するには、テレビと本機を HDMI で接続する必要があります。それ以外の方法で接続している場合は、前面ディスプレイを見ながら操作してください。
- 本機が表示できない文字は、「_」（アンダーバー）で表示されます。

1 USB キーで入力を「USB」に切り替える。

テレビにブラウズ画面が表示されます。

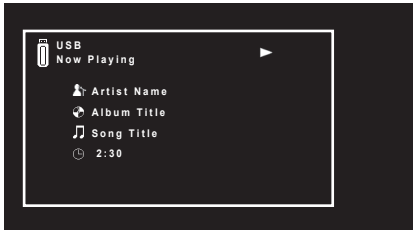


- USB 機器側で再生状態が続いている場合は、再生画面が表示されます。



2 カーソルキーでコンテンツを選び、ENTERキーで確定する。

曲を選ぶと再生が始まり、再生画面が表示されます。



- 1 つ前の画面に戻るには、RETURN キーを押します。
- 再生中にブラウズ画面を表示するには、カーソルキー（◁）を押します。
- 本機が対応していない形式のファイルは選べません。

■ ブラウズ画面



❶ リスト名

❷ コンテンツリスト

USB 機器のコンテンツ一覧が表示されます。カーソルキーでコンテンツを選び、ENTER キーで確定します。

❸ コンテンツ番号 / 総数

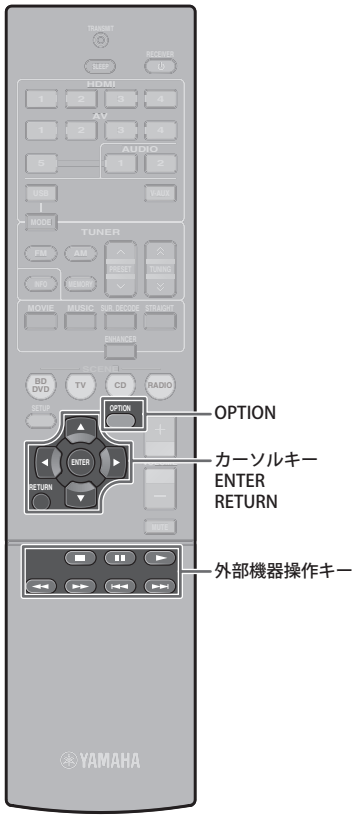
❹ ステータス表示

リピート再生 / ランダム再生の設定（48ページ）、および再生状態（再生 / 一時停止など）が表示されます。

❺ 操作メニュー

カーソルキーでアイコンを選び、ENTER キーで実行します。

アイコン	説明
⏫	10 ページ上のリストに切り替えます。
⏶	1 ページ上のリストに切り替えます。
⏷	1 ページ下のリストに切り替えます。
⏬	10 ページ下のリストに切り替えます。
♪	再生画面を表示します。



■ 再生画面



❶ ステータス表示

リピート再生 / ランダム再生（48ページ）の設定、および再生状態（再生 / 一時停止など）が表示されます。

❷ 再生情報

アーティスト名、アルバム名、曲名、再生時間が表示されます。

次のリモコンキーで再生を操作します。

外部機器操作キー	説明
►	一時停止を解除して再生を始めます、または最後に再生した曲を再生します。
■	再生を停止します。
▮▮	再生を一時停止します。
⏮	再生中の曲の先頭（連続で押すと前の曲）/ 次の曲にスキップします。
⏭	
◄◄	押し続けている間、曲を巻き戻し / 早送りします。
►►	

■ リピート再生 / ランダム再生

USB 機器のリピート再生およびランダム再生を設定します。

1 入力に「USB」が選ばれている状態で、OPTION キーを押す。

2 カーソルキーで「Repeat」を選び、ENTER キーを押す。

• メニュー操作中、1 つ前の画面に戻るには、RETURN キーを押します。

3 カーソルキー（◁/▷）で設定値を選ぶ。

設定値	説明
Off	リピート再生を無効にする。
One	現在の曲を繰り返し再生する。 テレビ画面に「🔂」が表示されます。
All	アルバム（フォルダー）内の曲を繰り返し再生する。 テレビ画面に「🔁」が表示されます。
Random	曲をランダムに再生する。 テレビ画面に「🔀」が表示されます。

4 終了するには、OPTION キーを押す。

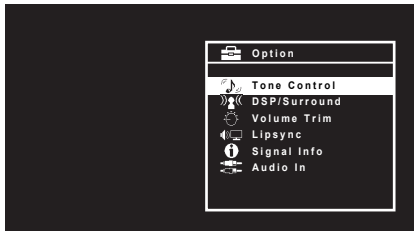
再生ソースに合わせて設定する（オプションメニュー）

再生中のソースにあわせて、再生関連の機能を設定します。テレビ画面を使わずに、前面ディスプレイだけでも操作できるので、必要なときに簡単に設定を変更できます。

1 OPTION キーを押す。



前面ディスプレイ



テレビ画面

2 カーソルキーで設定項目を選び、ENTER キーを押す。

- メニュー操作中、1つ前の画面に戻るには RETURN キーを押します。

3 カーソルキー（◁/▷）で設定値を選ぶ。

4 終了するには、OPTION キーを押す。

オプションメニューでできること

- 選択中の入力に適用可能な項目のみが表示されます。
- カッコ内の表記は前面ディスプレイの表示です。

項目		説明	ページ
トーン コントロール **Tone Control**		音声の高音域と低音域のバランスを調整します。	50
サラウンド **DSP/Surround**	レベル **DSP Level**	音場プログラムのエフェクト量を調節します。	50
	アダプティブ **Adaptive DRC（A.DRC）**	音量調節に連動して、ダイナミックレンジ（最大音量と最小音量の差）を自動的に調節するかどうかを設定します。	50
	デュアル モノ **Dual Mono**	多重音声入力時の出力音声を設定します。	50
	エンハンサー **Enhancer**	ミュージックエンハンサーを有効 / 無効にします。	51
ボリューム トリム **Volume Trim**	インプット トリム **Input Trim（In.Trim）**	入力間の音量差を補正します。	51
	サブウーファー トリム **Subwoofer Trim（SW.Trim）**	サブウーファーの音量を微調整します。	51
リップシンク **Lipsync**		セットアップメニューの「Lipsync」で設定した補正値を有効 / 無効にします。	51
シグナル インフォ **Signal Info**		映像 / 音声信号に関する情報を確認します。	51
オーディオ イン **Audio In**		選択した入力の映像とほかの端子の音声を組み合わせます。	52
ビデオ アウト **Video Out**		ラジオの音声と同時に出力する映像を設定します。	52
オート プリセット **Auto Preset**		信号の強い FM ラジオ局を自動でプリセット番号に登録します。	39
クリア プリセット **Clear Preset**		プリセット番号に登録されているラジオ局（プリセット局）の登録を解除します。	41
リピート **Repeat**		iPod（45ページ）、USB 機器（48ページ）のリピート再生を設定します。	—
シャッフル **Shuffle**		iPod のシャッフル再生を設定します。	45

■ Tone Control

出力される音声の高音域（Treble）と低音域（Bass）のバランスを調整します。

選択項目
Treble、Bass

設定値
–6.0dB ～ Bypass ～ +6.0dB（0.5dB 単位）

初期値
Bypass

!

• 極端な設定にすると、音のつながりが悪くなることがあります。

本体前面のキーでも調整できます

① TONE CONTROL キーで「Treble」または「Bass」を選ぶ。

② PROGRAM キーで調整する。

■ DSP/Surround

音場プログラムやサラウンドに関する設定を変更します。

❑ DSP Level

音場プログラムのエフェクト量（音場効果）を調節します。

設定値
–6dB ～ +3dB（1dB 単位）

初期値
0dB

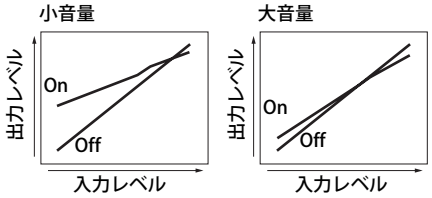
❑ Adaptive DRC（A.DRC）

音量調節に連動して、ダイナミックレンジ（最大音量と最小音量の差）を自動的に調節するかどうかを設定します。「On」にすると、夜間など小音量でも聴きやすくなります。

設定値

On	ダイナミックレンジを自動的に調節する。
Off（初期値）	ダイナミックレンジを自動的に調節しない。

「On」に設定すると、音量が小さいときはダイナミックレンジが狭まり、大きいときは広がります。



❑ Dual Mono

地上デジタル/BS デジタル放送など、モノラル多重音声入力時の出力音声を設定します。

設定値

All	主音声と副音声をフロントスピーカーから同時に出力する。 PCM 信号の左右振り分けは、デジタル放送チューナーの設定により異なります。
Main（初期値）	主音声をフロントスピーカーから出力する。
Sub	副音声をフロントスピーカーから出力する。

❑ Enhancer

ミュージックエンハンサー（38ページ）を有効 / 無効にします。

- 入力ごとに個別に設定できます。
- リモコンの ENHANCER キーでも、ミュージックエンハンサー（38ページ）を有効 / 無効にできます。

設定値

Off	ミュージックエンハンサーを無効にする。
On	ミュージックエンハンサーを有効にする。

初期値
USB、TUNER：On
その他：Off

■ Volume Trim

入力間の音量差やサブウーファーの音量を微調整します。

❑ Input Trim（In.Trim）

入力間の音量差を補正します。入力切替時に音量の増減が気になる場合は、この設定を使って調節してください。

- 入力ごとに個別に設定できます。

設定値
–6.0dB ～ +6.0dB（0.5dB 単位）

初期値
0.0dB

❑ Subwoofer Trim（SW.Trim）

サブウーファーの音量を微調整します。

設定値
–6.0dB ～ +6.0dB（0.5dB 単位）

初期値
0.0dB

■ Lipsync

セットアップメニューの「Lipsync」（60ページ）で設定した補正値を有効 / 無効にします。

- 入力ごとに個別に設定できます。

設定値

Off	Lipsync（リップシンク）による補正を無効にする。
On（初期値）	Lipsync（リップシンク）による補正を有効にする。

■ Signal Info

映像 / 音声信号に関する情報を確認します。

選択項目

Format（FORMAT）	入力信号の音声フォーマット
Channel（CHAN）	入力信号のチャンネル数（フロント / サラウンド /LFE） 「3/2/0.1」と表示されている場合、フロント 3ch、サラウンド 2ch、LFE0.1ch
Sampling（SAMPL）	入力デジタル信号の 1 秒あたりのサンプル数
Bitrate（B RATE）	入力ビットストリーム信号の 1 秒あたりのデータ量
Input（V IN）	入力映像信号の種類と解像度
Output（V OUT）	出力映像信号の種類と解像度

- 前面ディスプレイの表示項目を切り替えるには、カーソルキー（△/▽）を繰り返し押します。

■ Audio In

選択した入力（HDMI1 ～ 4 または AV1 ～ 2）の映像とほかの端子の音声を組み合わせます。以下のような場合にご利用ください。

- 映像は HDMI、音声は HDMI 以外で出力する再生機器を本機に接続する。
- 映像は D 端子、音声はアナログステレオで出力する再生機器（ゲーム機など）を本機に接続する。

■ 手順

（光デジタル端子を使って音声を入力する場合）

「AV1」または「AV4」を選び、光デジタルケーブルを使って外部機器を本機の音声入力端子に接続する。

（同軸デジタル端子を使って音声を入力する場合）

「AV2」または「AV3」を選び、同軸デジタルケーブルを使って外部機器を本機の音声入力端子に接続する。

（アナログ音声端子を使って音声を入力する場合）

「AV5」、「AUDIO1」、「AUDIO2」のいずれかを選び、ステレオピンケーブルを使って外部機器を本機の音声入力端子に接続する。

■ Video Out

ラジオの音声と同時に出力する映像を設定します。

設定値

Off（初期値）	映像を表示しない。
HDMI1 ～ 4、 AV1 ～ 5、V-AUX	選択した入力の映像を表示する。

設定する

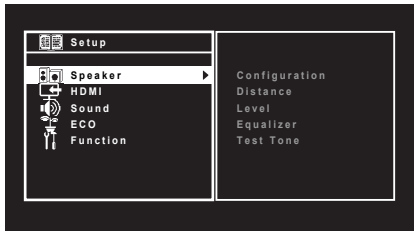
詳細機能を設定する（セットアップメニュー）

本機の詳細機能を設定します。
ここではテレビ画面を使ったセットアップメニューの操作方法を説明します。

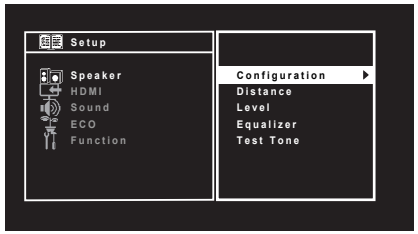
- セットアップメニューをテレビ画面に表示するには、テレビと本機を HDMI で接続する必要があります。それ以外の方法で接続している場合は、前面ディスプレイを見ながら操作してください。

1 SETUP キーを押す。

2 カーソルキーでメニューを選び、ENTER キーを押す。



3 カーソルキーで設定項目を選び、ENTER キーを押す。



- メニュー操作中、1 つ前の画面に戻るには RETURN キーを押します。

4 カーソルキー（◁/▷）で設定値を選ぶ。

5 終了するには、SETUP キーを押す。

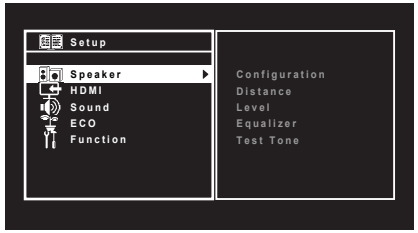
セットアップメニューでできること

メニュー	項目		説明	ページ
スピーカー Speaker	コンフィグレーション Configuration	サブウーファー Subwoofer	サブウーファーの有無を選択します。	56
		フロント Front	フロントスピーカーのサイズを選択します。	56
		センター Center	フロントスピーカーの有無やサイズを選択します。	56
		サラウンド Surround	サラウンドスピーカーの有無やサイズを選択します。	56
		クロスオーバー Crossover	「Small」に設定したスピーカーから出力する、低音域の周波数を設定します。	56
		サブウーファー フェーズ Subwoofer Phase	サブウーファーの位相を設定します。	57
		エクストラ ベース Extra Bass	フロントチャンネルの低音域を出力するスピーカーを設定します。	57
	ディスタンス Distance		スピーカーの距離を個別に設定します。	57
	レベル Level		スピーカーの音量を個別に設定します。	57
	イコライザー Equalizer		イコライザーを使って音色を調節します。	57
	テスト トーン Test Tone		テストトーン出力を有効 / 無効にします。	58
HDMI	コンフィグレーション Configuration	HDMI コントロール HDMI Control	HDMI コントロールを有効 / 無効にします。	58
		オーディオ アウトプット Audio Output	音声の出力先を設定します。	58
		TV オーディオ インプット TV Audio Input	テレビの音声出力端子と接続した本機の音声入力端子を選択します。	59
		スタンバイ シンク Standby Sync	HDMI コントロールでテレビと本機の電源スタンバイを連動させるかどうかを設定します。	59
		ARC	ARC を有効 / 無効にします。	59
		シーン SCENE	シーン連動を有効 / 無効にします。	59

メニュー	項目		説明	ページ
Sound	DSP Parameter	Panorama	フロント音場の広がり感を調節します。	60
		Center Width	センターチャンネル音声の左右への広がりを調節します。	60
		Dimension	フロント音場とサラウンド音場のレベル差を調節します。	60
		Center Image	フロント音場のセンター定位の強さ（広がり感）を調節します。	60
	Lipsync	Select	映像と音声の出力タイミングのずれを補正する方法を選択します。	60
		Adjustment	映像と音声のずれを手動で調整します。	61
	Volume	Dynamic Range	Dolby Digital や DTS 信号再生時のダイナミックレンジの調節方法を選択します。	61
		Max Volume	リモコンの VOLUME キーなどで調節可能な音量の上限値を設定します。	61
		Initial Volume	電源を入れたときの音量を設定します。	61
ECO	Auto Power Down		本機を指定時間操作しなかったときに電源を自動的にスタンバイにします。	61
	ECO Mode		エコモード（消費電力の節約）を有効 / 無効にします。	61
Function	Input Rename		前面ディスプレイに表示する、入力の名称を変更します。	62
	Dimmer		前面ディスプレイの明るさを調節します。	62
	Memory Guard		設定を保護して、変更できないようにします。	62

Speaker

スピーカーの各種パラメーターを手動で設定します。



■ Configuration

スピーカーの出力特性を設定します。

- スピーカーサイズ選択の目安は、使用するスピーカーのウーファー部口径が 16cm 以上の場合は「Large」、16cm 未満の場合は「Small」です。

❑ Subwoofer

サブウーファーの有無を選択します。

設定値

Use（初期値）	サブウーファーを接続している場合に選択する。 LFE（低域効果音）チャンネルの音声と、他のスピーカーから振り分けられた音声がサブウーファーから出力されます。
None	サブウーファーを接続しない場合に選択する。 低音域の音声はフロントスピーカーから出力されます。

❑ Front

フロントスピーカーのサイズを選択します。

設定値

Small（初期値）	フロントスピーカーが小さい場合に選択する。 フロントチャンネルの低音域（「Crossover」で周波数を設定可）は、サブウーファーから出力されます。
Large	フロントスピーカーが大きい場合に選択する。 フロントチャンネルの全帯域がフロントスピーカーから出力されます。

- 「Subwoofer」が「None」の場合は、自動的に「Large」が選択されます。

❑ Center

センタースピーカーの有無やサイズを選択します。

設定値

Small（初期値）	センタースピーカーが小さい場合に選択する。 センターチャンネルの低音域（「Crossover」で周波数を設定可）は、サブウーファーまたはフロントスピーカーから出力されます。
Large	センタースピーカーが大きい場合に選択する。 センターチャンネルの全帯域がセンタースピーカーから出力されます。
None	センタースピーカーを接続しない場合に選択する。 センターチャンネルの音声はフロントスピーカーから出力されます。

❑ Surround

サラウンドスピーカーの有無やサイズを選択します。

設定値

Small（初期値）	サラウンドスピーカーが小さい場合に選択する。 サラウンドチャンネルの低音域（「Crossover」で周波数を設定可）は、サブウーファーまたはフロントスピーカーから出力されます。
Large	サラウンドスピーカーが大きい場合に選択する。 サラウンドチャンネルの全帯域がサラウンドスピーカーから出力されます。
None	サラウンドスピーカーを接続しない場合に選択する。 サラウンドチャンネルの音声はフロントスピーカーから出力され、音場プログラムがバーチャルシネマ DSP に切り替わります。

❑ Crossover

「Small」に設定したスピーカーから出力する、低音域の周波数を設定します。設定値より低い周波数の音声は、サブウーファーまたはフロントスピーカーから出力されます。

設定値

40Hz、60Hz、80Hz（初期値）、90Hz、100Hz、110Hz、120Hz、160Hz、200Hz

• サブウーファー側で音量やクロスオーバー周波数を調節できる場合は、音量を半分に、クロスオーバー周波数を最大にしてください。

❑ Subwoofer Phase

サブウーファーの位相を設定します。視聴位置で低音が弱く感じるときに、位相を変更すると改善される場合があります。

設定値

Normal（初期値）	サブウーファーの位相を反転しない。
Reverse	サブウーファーの位相を反転する。

❑ Extra Bass

フロントチャンネルの低音域を出力するスピーカーを設定します。

設定値

Off（初期値）	フロントスピーカーのサイズに応じて、サブウーファーまたはフロントスピーカーの一方から低音域音声を出力する。
On	サブウーファーとフロントスピーカーの両方から低音域音声を出力する。

• 「Subwoofer」が「None」または「Front」が「Small」の場合は設定できません。

■ Distance

スピーカーの距離を個別に設定して、各スピーカーの音が視聴位置に同時に届くように調節します。最初に「Unit」（表示単位）を「Meter」（メートル）または「Feet」（フィート）から選んでください。

選択項目
Front L、Front R、Center、Surround L、Surround R、Subwoofer

設定値
0.30m ～ 24.00m（1.0ft ～ 80.0ft） ※0.05m（0.2ft）単位

初期値
Front L、Front R、Subwoofer：3.00m（10.0ft）
Center：2.60m（8.6ft）
Surround L、Surround R：2.40m（8.0ft）

■ Level

スピーカーの音量を個別に調節します。

選択項目
Front L、Front R、Center、Surround L、Surround R、Subwoofer

設定値
–10.0dB ～ +10.0dB（0.5dB 単位）

初期値
Front L、Front R、Subwoofer：0.0dB
その他：–1.0dB

■ Equalizer

イコライザーを使って音色を調節します。

❑ EQ Select

使用するイコライザーの種類を選択します。

設定値

PEQ	YPAO の自動測定（29ページ）で得たパラメトリックイコライザーの値を適用する。
GEQ（初期値）	イコライザーを手動で調節する場合に選択する。 詳しくは「イコライザーの手動編集」をご覧ください。
Off	イコライザーを使用しない。

• 「PEQ」は YPAO 実行後（29ページ）のみ選択できます。

■ イコライザーの手動編集

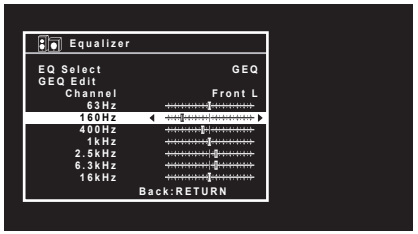
1 「EQ Select」で「GEQ」を選ぶ。

2 カーソルキー（△/▽）で「Channel」を選び、カーソルキー（◁/▷）で調節するチャンネルを選ぶ。

3 カーソルキー（△/▽）で周波数を選び、カーソルキー（◁/▷）でレベルの強さを調節する。

設定値

–6.0dB ～ +6.0dB（0.5dB 単位）



4 終了するには、SETUP キーを押す。

■ Test Tone

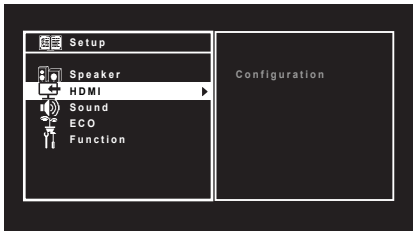
テストトーン出力を有効 / 無効にします。テストトーンを出力すると、実際の効果を確認しながらスピーカーの音量やイコライザーを調節できます。

設定値

Off（初期値）	テストトーンを出力しない。
On	音の出力が必要なパラメーターを設定する際に、テストトーンを自動的に出力する。

HDMI

HDMI に関する設定を変更します。



■ Configuration

❑ HDMI Control

HDMI コントロール（73ページ）を有効 / 無効にします。

設定値

Off	HDMI コントロールを無効にする。
On（初期値）	HDMI コントロールを有効にする。 「TV Audio Input」、「Standby Sync」、「ARC」、「SCENE」の設定が適用されます。

!

- **「HDMI Control」を「On」に設定しただけでは、HDMI コントロールは機能しません。HDMI コントロール対応のテレビや再生機器を本機に接続後、連動設定が必要になります（73ページ）。**

❑ Audio Output

音声の出力先を設定します。

- **「HDMI Control」が「Off」の場合のみ設定できます。**

Amp

音声を本機に接続したスピーカーから出力するかどうかを設定します。

設定値

Off	スピーカーから出力しない。
On（初期値）	スピーカーから出力する。

HDMI OUT（TV）

音声を HDMI OUT 端子に接続したテレビから出力するかどうかを設定します。

設定値

Off（初期値）	テレビから出力しない。
On	テレビから出力する。

❑ TV Audio Input

「HDMI Control」を「On」に設定時、テレビの音声出力端子と接続した本機の音声入力端子を選択します。テレビ側の入力設定を内蔵チューナー（テレビ）に切り替えると、本機の入力が自動的にテレビ音声に切り替わります。

設定値

AV1 ～ 5、AUDIO1 ～ 2

初期値

AV4

!

- **ARC 使用時は、ここで選択した入力がテレビ音声入力用として使用されます。したがって、本体背面の該当入力端子は使用できません。**

❑ Standby Sync

「HDMI Control」を「On」に設定時、HDMI コントロールでテレビと本機の電源スタンバイを連動させるかどうかを設定します。

設定値

Off	テレビと本機の電源スタンバイを連動させない。
On	テレビの電源スタンバイに連動して本機もスタンバイにする。
Auto（初期値）	本機がテレビ音声入力中または HDMI 信号入力中のみ、テレビの電源スタンバイに連動して本機もスタンバイにする。

❑ ARC

「HDMI Control」を「On」に設定時、ARC（19ページ）を有効 / 無効にします。

設定値

Off	ARC を無効にする。
On（初期値）	ARC を有効にする。

!

- **通常は「On」（初期値）から変更する必要はありません。本機が非対応の音声信号がテレビから入力されてノイズが発生する場合のみ、「Off」に設定してください。この場合は、テレビ側のスピーカーをお使いください。**

❑ SCENE

「HDMI Control」を「On」に設定時、シーン連動を有効 / 無効にします。

シーン連動を使うと、シーン選択時に本機に接続した HDMI コントロール対応の外部機器が次のように連動します。

- テレビの電源入、入力の切り替え
- 再生機器の再生開始

選択項目（SCENE キー）

BD/DVD、TV、CD、RADIO

設定値

Off	選択した SCENE キーのシーン連動を無効にする。
On	選択した SCENE キーのシーン連動を有効にする。

初期値

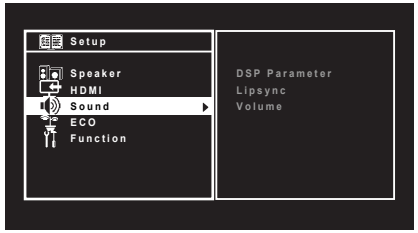
BD/DVD、TV：On
CD、RADIO：Off

!

- **機器の相性などにより、シーン連動が正しく機能しない場合があります。**
- **HDMI コントロール機能をより有効に利用するために、テレビと再生機器は、なるべく同一メーカーのものを使うことをおすすめします。各メーカーの HDMI コントロール対応機種については、以下のウェブサイトをご覧ください。**
  http://jp.yamaha.com/products/audio-visual/connect/hdmi_cec/

Sound

音声出力に関する設定を変更します。



■ DSP Parameter

サラウンドデコーダーに関する設定を変更します。

❑ Panorama

「DPLII Music」選択時の、パノラマ（フロント音場の広がり感）を有効 / 無効にします。有効にすると、フロントチャンネル音声を左右に大きく回り込ませて、サラウンド音場とつながるような広がり感を得ることができます。

設定値

Off（初期値）	パノラマを無効にする。
On	パノラマを有効にする。

❑ Center Width

「DPLII Music」選択時の、センターチャンネル音声の左右への広がりを調節します。値を大きくすると左右に広がり、小さくするとセンターに近づきます。

設定値
0 ～ 7

初期値
3

❑ Dimension

「DPLII Music」選択時の、フロント音場とサラウンド音場のレベル差を調節します。値を大きくするとフロント音場が強くなり、小さくするとサラウンド音場が強くなります。

設定値
–3 ～ +3

初期値
0

❑ Center Image

「Neo:6 Music」選択時の、フロント音場のセンター定位の強さ（広がり感）を調節します。値を大きくするとセンター定位が強まり広がり感が減少し、小さくするとセンター定位が弱まり広がり感が増加します。

設定値
0.0 ～ 1.0

初期値
0.3

■ Lipsync

映像と音声の出力タイミングのずれを調整します。

• オプションメニューの「Lipsync」（51ページ）で、リップシンクによる補正を入力ごとに有効 / 無効にできます。

❑ Select

映像と音声の出力タイミングのずれを補正する方法を選択します。

設定値

Manual	映像と音声のずれを手動で調整する。 「Adjustment」で入力した値が補正値として適用されます。
Auto（初期値）	映像と音声のずれを自動で調整する。（自動補正に対応しているテレビを HDMI で本機に接続している場合のみ有効） 必要に応じて、「Adjustment」で補正時間を微調整できます。

• 本機に接続したテレビにより、自動的に「Manual」に設定される場合があります。

❑ Adjustment

「Select」を「Manual」に設定時、映像と音声のずれを手動で調整します。「Select」を「Auto」に設定時は、自動補正された値をさらに微調整することができます。

設定値
0ms ～ 250ms（1ms 単位）

初期値
0ms

■ Volume

音量に関する設定を変更します。

❑ Dynamic Range

Dolby Digital や DTS 信号再生時のダイナミックレンジの調節方法を選択します。

設定値

Maximum（初期値）	入力信号を補正せずに再生する。
Standard	家庭での使用に適したダイナミックレンジで再生する。
Min/Auto	夜間や小音量でも聴きやすいダイナミックレンジで再生する。 Dolby TrueHD 再生時は、入力信号の情報にもとづいて再生されます。

❑ Max Volume

リモコンの VOLUME キーなどで調節可能な音量の上限値を設定します。

設定値
–30.0dB ～ +15.0dB（5.0dB 単位）、+16.5dB

初期値
+16.5dB

❑ Initial Volume

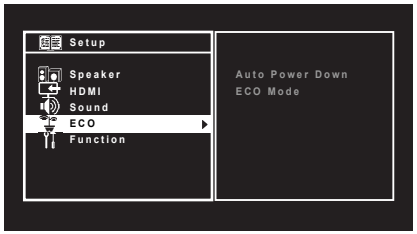
電源を入れたときの音量を設定します。

設定値

Off（初期値）	前回電源をスタンバイにしたときの音量を適用する。
Mute	消音を適用する。
–80.0dB ～ +16.5dB （0.5dB 単位）	指定した音量を適用する。 （「Max Volume」より低く設定した場合のみ有効）

ECO

電源 / 消費電力に関する設定を変更します。



■ Auto Power Down

本機を指定時間操作しなかったときに電源を自動的にスタンバイにします。

設定値

Off（初期値）	電源を自動的にスタンバイにしない。
2 hours、4 hours、 8 hours、12 hours	本機を指定時間操作しなかったときに電源を自動的にスタンバイにする。たとえば「2 hours」に設定した場合、本機を 2 時間操作しなかったときに電源が自動的にスタンバイになります。

- **自動的にスタンバイになる直前に、前面パネルに「AutoPowerDown」と表示され、スタンバイに切り替わるまでの秒数が表示されます。**

■ ECO Mode

エコモードを有効 / 無効にします。

有効にすると、本機の消費電力を低減できます。

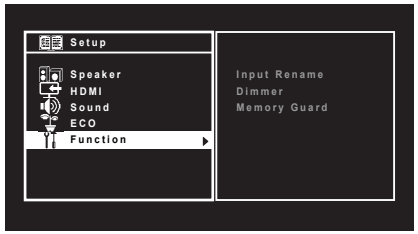
設定値

Off（初期値）	エコモードを無効にする。
On	エコモードを有効にする。

- **「ECO Mode」の設定を変更した場合は、ENTER キーを押して必ず本機を再起動してください。新しい設定は再起動後に反映されます。**
- **「Eco Mode」を「On」に設定時は、前面ディスプレイの表示が暗くなることがあります。**
- **大きな音量で再生する場合は、「Eco Mode」を「Off」に設定してください。**

Function

本機をより便利に使うための機能を設定します。



■ Input Rename

前面ディスプレイに表示する、入力の名称を変更します。あらかじめ用意されている名称から選ぶこともできます。

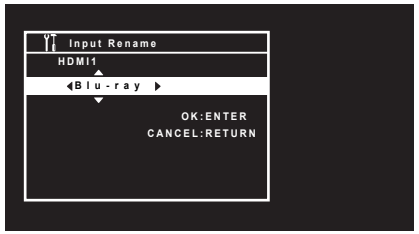
対象の入力
HDMI1 ～ 4、AV1 ～ 5、AUDIO1 ～ 2、USB、V-AUX

■ 手順

1 カーソルキー（△/▽）で名称を変更する入力を選び、ENTER キーを押す。

- あらかじめ用意されている名称から選ぶには、入力選択後に、カーソルキー（◁/▷）で名称を選びます。

2 カーソルキーで変更位置（◁/▷）を選び、カーソルキー（△/▽）で文字を選ぶ。



3 入力した名称を確定するには、ENTER キーを押す。

- 入力した内容を取り消すには、RETURN キーを押します。

4 別の入力の名称を変更するには、手順 1 ～ 3 を繰り返す。

5 終了するには、SETUP キーを押す。

■ Dimmer

前面ディスプレイの明るさを調節します。

設定値
–4 ～ 0（値が大きいほど明るい）

初期値
0

- 「ECO Mode」（61ページ）を「On」に設定時は、前面ディスプレイの表示が暗くなることがあります。

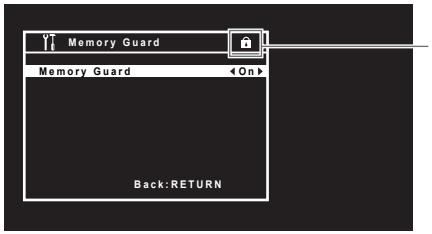
■ Memory Guard

設定を保護して、変更できないようにします。

設定値

Off（初期値）	設定を保護しない。
On	設定を保護する。「Off」に戻すまで、設定変更が禁止されます。

- 「Memory Guard」を「On」に設定時は、メニュー画面に「🔒」アイコンが表示されます。

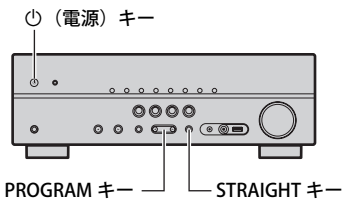


システム設定を変更する（アドバンスドセットアップメニュー）

前面ディスプレイを見ながら、本機のシステム設定を変更します。

1 本機の電源が入っている場合は、電源をスタンバイにする。

2 前面の STRAIGHT キーを押しながら ⏻（電源）キーを押す。



3 PROGRAM キーで設定項目を選ぶ。

4 STRAIGHT キーで設定値を選ぶ。

5 ⏻（電源）キーで、電源をスタンバイにしてから再度電源を入れる。

設定変更が反映されます。

アドバンスドセットアップメニューでできること

項目	説明	ページ
REMOTE ID	本体側のリモコン ID を変更します。	63
TV FORMAT	HDMI 映像出力のビデオ信号方式を切り替えます。	63
INIT	各種設定を初期化します。	64
UPDATE	ファームウェアを更新します。	64
VERSION	本機にインストールされているファームウェアのバージョンを表示します。	64

リモコン ID の変更（REMOTE ID）



リモコン側のリモコン ID（初期値：ID1）と一致するよう、本体側のリモコン ID を変更します。

複数のヤマハ製 AV レシーバーをお使いの場合、それぞれのリモコンで各レシーバーを操作するために、リモコン ID が重ならないように設定します。

設定値

ID1（初期値）、ID2

■ リモコン側のリモコン ID 設定

1 ID1 に設定するには、カーソルキー（◁）と SCENE（BD/DVD）キーを同時に 3 秒間押し続ける。

ID2 に設定するには、カーソルキー（◁）と SCENE（TV）キーを同時に 3 秒間押し続ける。

ビデオ信号方式の変更（TV FORMAT）



お使いのテレビにあわせて、本機の HDMI OUT 端子から出力されるビデオ信号方式を切り替えます。

通常は変更する必要はありません。本機により、テレビにあったビデオ信号方式が自動的に選択されます。テレビの映像が乱れる場合のみ変更してください。

設定値

NTSC（初期値）、PAL

設定の初期化（INIT）



本機の各種設定を初期化します。

選択項目

ALL	すべての設定を初期化する。
CANCEL	初期化しない。

ファームウェアの更新（UPDATE）



機能の追加や不具合の改善に応じて、ファームウェアが更新されることがあります。ファームウェアは弊社ウェブサイトからダウンロードできます。詳しくは、ファームウェア更新時に提供される情報をご確認ください。

■ ファームウェアの更新手順

ファームウェア更新時以外は実行しないでください。また実行前に、更新時に提供される情報を必ずご確認ください。

1. **ダウンロードしたファームウェアを USB メモリーのルートフォルダーに保存する。**
2. **前面の PROGRAM キーで「UPDATE」を選ぶ。**
3. **USB メモリーを USB 端子に接続する。**
4. **ファームウェアの更新を実行するには、前面の INFO キーを押す。**
5. **前面ディスプレイに「UPDATE SUCCESS PLEASE POWER OFF!」と表示されたら、前面の ⏻（電源）キーを押す。**

これでファームウェアの更新は完了です。

!

- **ファームウェア更新中は、本機を操作したり電源コードや USB メモリーを抜いたりしないでください。**

ファームウェアバージョンの確認（VERSION）



本機にインストールされているファームウェアのバージョンを表示します。

付録

こんな場合の解決方法

別のスピーカーに交換したら、音のバランスが以前より悪くなった …

スピーカーを交換した場合やスピーカーシステムを変更した場合は、YPAO（自動測定）を実行してスピーカー設定を再調整してください（29ページ）。手動でスピーカー設定を調整する場合は、セットアップメニューの「Speaker」をご利用ください（56ページ）。

小さな子供がいるので音量が大きくならないようにしたい …

誤って本体やリモコンを操作して突然音量が大きくなると、事故や故障につながる恐れがあります。このような場合は、セットアップメニューの「Max Volume」で、調節可能な音量の上限値をあらかじめ設定してください（61ページ）。

電源を入れた直後に音量が大きいとびっくりする …

初期状態では、電源をスタンバイにしたときの音量設定が、次回電源を入れたときにそのまま適用されます。音量を一定にしたい場合は、セットアップメニューの「Initial Volume」で、電源を入れたときの音量を設定してください（61ページ）。

HDMI ケーブルで接続しているのに HDMI コントロールが機能しない …

HDMI コントロールを使うには、HDMI コントロール対応機器どうしの連動設定が必要になります（73ページ）。HDMI コントロール対応機器（テレビ、BD/DVD レコーダーなど）を本機に接続後、各機器の HDMI コントロール設定を有効にしてから、連動設定を行ってください。この設定は HDMI コントロール対応機器を追加するたびに必要です。なお、HDMI コントロールを使ってテレビと再生機器間で操作できる機能については、各機器の取扱説明書をご覧ください。

入力選択時に機器名やメーカー名を表示させたい …

初期状態では、入力名（HDMI1、AV1 など）が前面ディスプレイに表示されます。ほかの名称に変更したい場合は、セットアップメニューの「Input Rename」（62ページ）で表示名を設定してください。あらかじめ用意されている名称（Blu-ray、DVD など）から選ぶこともできます。

設定変更を禁止したい …

スピーカー設定など、本機の各種設定の変更を禁止するには、セットアップメニューの「Memory Guard」をご利用ください（62ページ）。

本機のリモコンを操作すると、別のヤマハ製機器が同時に動いてしまう …

複数のヤマハ製機器お使いの場合、本機のリモコンを操作すると別の機器が同時に動いたり、ほかのリモコンを操作すると本機が動いたりすることがあります。このような場合は、それぞれのリモコンで各機器を操作するために、リモコン ID が重ならないように設定してください（63ページ）。

故障かな？と思ったら

ご使用中に本機が正常に動作しなくなった場合は、下記をご確認ください。

対処しても正常に動作しない、または下記以外で異常が認められた場合は、本機の電源を切り、電源プラグを抜いて、お買い上げ店または巻末の「お問い合わせ窓口」にお問い合わせください。

最初にご確認ください …

① 本機、テレビ、再生機器（BD/DVD レコーダーなど）の電源プラグがコンセントにしっかりと接続されている。

② 本機、サブウーファー、テレビ、再生機器（BD/DVD レコーダーなど）の電源が入っている。

③ 各機器間のケーブルが端子にしっかりと接続されている。

電源 / システム

症状	原因	対策
電源が入らない	保護回路が 3 回続けて作動した。	製品保護のため電源が入らなくなります。ヤマハ修理ご相談センターに修理をご依頼ください。
電源が切れない	外部電気ショック（落雷、過度の静電気など）や、電源電圧の低下により、内部マイコンがフリーズしている。	本体前面の ⏻（電源）キーを 10 秒以上押して本機を再起動してください。
電源がすぐに切れてしまう	スピーカーケーブルがショートしている状態で電源を入れた。	各スピーカーケーブルの芯線をしっかりとよじり、本機とスピーカーに接続し直してください（16ページ）。
電源が自動的にスタンバイに切り替わる	スリープタイマーが作動した。	もう一度電源を入れて、再生を始めてください。
	操作がない状態で一定時間が経過したため、オートパワーダウンが作動した。	オートパワーダウンを無効にするには、セットアップメニューの「Auto Power Down」を「Off」に設定してください（61ページ）。
	スピーカーケーブルがショートしたため、保護回路が作動した。	各スピーカーケーブルの芯線をしっかりとよじり、本機とスピーカーに接続し直してください（16ページ）。
本機が操作を受け付けない	外部電気ショック（落雷、過度の静電気など）や、電源電圧の低下により、内部マイコンがフリーズしている。	本体前面の ⏻（電源）キーを 10 秒以上押して本機を再起動してください。

音声

症状	原因	対策
音が出ない	別の入力が選択されている。	入力選択キーで正しい入力を選んでください。
	本機で再生できない信号が入力されている。	一部のデジタル音声フォーマットは本機で再生できません。入力信号の音声フォーマットは、オプションメニューの「Signal Info」で確認できます（51ページ）。
	本機と再生機器を接続しているケーブルが破損している。	接続を確認のうえ問題がなければ、別のケーブルに交換してください。
音量が上がらない	音量の上限値が低く設定されている。	セットアップメニューの「Max Volume」で上限値を調節してください（61ページ）。
	本機の出力端子に接続されている外部機器の電源が切れている。（AV レシーバーの特性上、可能性があります）	該当機器すべての電源を入れてください。
特定のスピーカーから音が出ない	再生ソースに該当チャンネルの信号が含まれていない。	オプションメニューの「Signal Info」で確認できます（51ページ）。
	該当スピーカーを使用しない音場プログラムやデコーダーが選択されている。	「5ch Stereo」を選ぶことで確認できます（35ページ）。
	該当スピーカーの音声出力が無効になっている。	YPAO を実行するか（29ページ）、セットアップメニューの「Configuration」で該当スピーカーの有無やサイズを選んでください（56ページ）。
	該当スピーカーの音量が極端に小さい。	YPAO を実行するか（29ページ）、セットアップメニューの「Level」で該当スピーカーの音量を調節してください（57ページ）。
	本機と該当スピーカーを接続しているケーブルが破損している。	接続を確認のうえ問題がなければ、別のケーブルに交換してください。
	該当スピーカーが故障している。	正常に機能している別のスピーカーと交換することで確認できます。 それでも音が出ない場合は、本機が故障している可能性があります。
サブウーファーから音が出ない	再生ソースに LFE や低音信号が含まれていない。	確認するには、セットアップメニューの「Extra Bass」を「On」に設定して、フロントチャンネルの低音域をサブウーファーから出力してください（57ページ）。
	サブウーファーの出力が無効になっている。	YPAO を実行するか（29ページ）、セットアップメニューの「Subwoofer」を「Use」に設定してください（56ページ）。
	サブウーファーのオートスタンバイ（自動的に電源を切る機能）が作動した。	サブウーファーのオートスタンバイを無効にするか、動作感度を調節してください。
HDMI で接続した再生機器の音が出ない	テレビが著作権保護（HDCP）に対応していない。	テレビの取扱説明書などを参照して確認してください。
	HDMI 入力音声をスピーカーから出力しない設定にしている。	セットアップメニューの「Audio Output」で、「Amp」を「On」に設定してください（58ページ）。
	HDMI OUT 端子に接続されている機器の数が制限数を超えている。	使用していない HDMI 機器を取り外してください。
テレビの音声が本機から出ない（HDMI コントロール使用時）	テレビ側で、テレビのスピーカーから音声を出力するように設定されている。	テレビ音声が本機から出力されるように、テレビの音声出力設定を変更してください。
	（音声ケーブルで本機とテレビを接続している場合） 「TV Audio Input」の設定と、実際にテレビが接続されている端子が異なっている。	セットアップメニューの「TV Audio Input」で正しい音声入力端子を選んでください（59ページ）。
	（ARC を使ってテレビ音声を入力したい場合） 本機またはテレビの ARC が無効になっている。	セットアップメニューの「ARC」を「On」に設定してください（59ページ）。 また、テレビ側で ARC を有効にしてください。

症状	原因	対策
マルチチャンネル再生時にフロントスピーカーからしか音が出ない	再生機器側で、常に 2 チャンネル（PCM など）で出力するように設定されている。	オプションメニューの「Signal Info」で信号情報を確認してください（51ページ）。必要に応じて、再生機器側の音声出力設定を変更してください。
雑音が入る	デジタル機器や高周波機器が本機の近くに置かれている。	本機と該当機器の距離を離してください。
	本機と再生機器を接続しているケーブルが破損している。	接続を確認のうえ問題がなければ、別のケーブルに交換してください。
音がひずむ	本機の出力端子に接続されている外部機器の電源が切れている。（AV アンプの特性上、可能性があります）	該当機器すべての電源を入れてください。

映像

症状	原因	対策
映像が出ない	本機で別の入力が選択されている。	入力選択キーで入力（ビデオ機器）を選んでください。
	テレビで別の入力が選択されている。	テレビ側の入力を本機からの映像に切り替えてください。
	テレビが非対応の映像信号を出力している。	再生機器側の映像出力設定を確認してください。テレビが対応している映像信号については、テレビの取扱説明書などを参照して確認してください。
	本機、テレビ、ビデオ機器を接続しているケーブルが破損している。	接続を確認のうえ問題がなければ、別のケーブルに交換してください。
HDMI で接続したビデオ機器の映像が出ない	本機が非対応の映像信号（解像度）を入力している。	入力中の映像信号（解像度）は、オプションメニューの「Signal Info」で確認できます（51ページ）。本機が対応している映像信号については「本機が対応している HDMI 信号」（75ページ）をご覧ください。
	テレビが著作権保護（HDCP）に対応していない。	テレビの取扱説明書などを参照して確認してください。
	HDMI OUT 端子に接続されている機器の数が制限数を超えている。	使用していない HDMI 機器を取り外してください。
本機のメニューがテレビに表示されない	本機とテレビが HDMI ケーブルで接続されていない。	本機のメニューをテレビに表示するには、本機とテレビを HDMI で接続する必要があります。必要に応じて、テレビと本機を HDMI ケーブルで接続してください（19 ～ 22ページ）
	テレビで別の入力が選択されている。	テレビ側の入力を本機（HDMI OUT 端子）からの映像に切り替えてください。

FM/AM ラジオ

症状	原因	対策
FM ラジオの受信感度が悪い、雑音が入る	マルチパス（多重反射）などの妨害電波を受けている。	FM アンテナの高さ、向き、設置場所を変えてください。
	FM ラジオ局から離れた地域で受信している。	MODE キーでモノラル放送に切り替えてください（39ページ）。
		市販の屋外アンテナを使用してください。多素子アンテナをおすすめします。
AM ラジオの受信感度が悪い、雑音が入る	蛍光灯、モーターなどの雑音を拾っている。	環境により雑音を完全に除去するのは困難です。ただし、市販の屋外アンテナを使うと雑音を低減できることがあります。

症状	原因	対策
自動選局ができない	FM ラジオ局から離れた地域で受信している。	手動で選局してください（39ページ）。
		市販の屋外アンテナを使用してください。多素子アンテナをおすすめします。
	AM ラジオの電波が弱い。	AM アンテナの方向を変えてください。
		手動で選局してください（39ページ）。
		市販の屋外アンテナを使用してください。ANTENNA（AM）端子に付属の AM アンテナと一緒に接続してください。
AM ラジオ局を登録（プリセット）できない	自動登録（オートプリセット）を使用した。	オートプリセットは FM ラジオ局のみが対象です。AM ラジオ局は手動で登録してください（40ページ）。

USB

症状	原因	対策
USB 機器が認識されない	USB 機器が USB 端子に正しく接続されていない。	本機の電源を切り、USB 機器を接続し直してください。
	FAT16/32 フォーマット以外の USB 機器を使用している。	FAT16/32 フォーマットの USB 機器（USB ハードディスクを除く）を使用してください。
USB 機器のフォルダーやファイルが表示されない	本機が認識できないファイル構成が適用されている。	本機が認識できるフォルダー階層は最大 8 階層、ファイル数は 1 階層あたり最大 65,000 個です。必要に応じて、USB 機器のフォルダー構成を変更してください。
	暗号化機能により USB 機器内のデータが保護されている。	暗号化機能のない USB 機器を使用してください。

リモコン

症状	原因	対策
本機を操作できない	操作範囲から外れている。	操作範囲内で操作してください（5ページ）。
	乾電池が消耗している。	新しい乾電池に交換してください。
	本体のリモコン信号受光部に日光や強い照明が当たっている。	照明または本体の向きを変えてください。
	本体とリモコンの ID が一致していない。	本体側またはリモコン側のリモコン ID を変更してください（63ページ）。

前面ディスプレイのエラー表示

メッセージ	内容	対策
Access error	USB 機器にアクセスできない。	本機の電源を切り、USB 機器を接続し直してください。それでもエラーが表示される場合は、別の USB 機器に音楽ファイルを移動して再生してください。
	iPod にアクセスできない。	iPod の電源を入れ直してください。
Check SP Wires	スピーカーケーブルがショートしている。	各スピーカーケーブルの芯線をしっかりとよじり、本機とスピーカーに接続し直してください（16ページ）。
Connect error	一度 iPod を認識したが通信ができない。	iPod の電源を入れ直してください。
Internal Error	本機の内部でエラーが発生している。	ヤマハ修理ご相談センターに修理をご依頼ください。
No content	選択したフォルダーに本機が再生可能なファイルが含まれていない。	本機が再生可能なファイルが含まれている、別のフォルダーを選択してください。
RemID Mismatch	本体とリモコンのリモコン ID が一致していない。	本体またはリモコンのリモコン ID を変更してください（63ページ）。
Unable to play	USB 機器の曲を再生できない。	再生可能なファイルか確認してください。ほかの機器でも再生できない場合は、曲データが破損している可能性があります。
	iPod の曲を再生できない。	再生可能なファイルか確認してください。iPod 本体でも再生できない場合は、曲データや記憶領域が破損している可能性があります。
Unknown iPod	非対応の iPod が接続されている。	対応している iPod をご利用ください（42ページ）。
USB Overloaded	USB 機器に過電流が流れている。	本機の電源を切り、USB 機器を接続し直してください。それでもエラーが表示される場合は、別の USB 機器に音楽ファイルを移動して再生してください。

音声に関する用語

■ 音声デコードフォーマット

サンプリング周波数と量子化ビット数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際の情報量を表す数値です。たとえば、48kHz/24bit などのように表現されます。

- サンプリング周波数
  1 秒間にサンプリング（信号の大きさを数値に置き換えること）する回数を示します。この数値が大きいほど再生可能な音域が広がります。
- 量子化ビット数
  音の大きさを数値化するときのきめ細かさを示します。この数値が大きいほど音の強弱変化をきめ細かく再現できます。

AAC（アドバンスト・オーディオ・コーディング）

MPEG-2 オーディオ規格の一つで、モノラル音声から 5.1 チャンネル音声までを効率良く圧縮できる音声フォーマットです。BS/ 地上波デジタル放送で採用されています。

Dolby Digital

ドルビーラボラトリーズにより開発された、5.1 チャンネル対応の圧縮音声フォーマットです。多くの DVD ディスクなどで採用されています。

Dolby Digital EX

Dolby Digital Surround EX 方式で収録された 6.1 チャンネル音声の再生方式です。5.1ch 信号に追加して、サラウンドバックチャンネルの音声も出力されます。

Dolby Pro Logic II

2 チャンネルで記録された音声信号を 5 チャンネル信号に変換する技術です。映画用の Movie モードと、音楽などのステレオソース用の Music モード、ゲーム用の Game モードが用意されています。

Dolby TrueHD

スタジオマスター品質の音声を家庭で再現するために、ドルビーラボラトリーズによって開発されたロスレス（可逆型）高品質音声フォーマットです。96kHz/24bit 時で最大 8 チャンネル（192kHz/24bit 時は最大 6 チャンネル）のディスクリート音声信号を収録・再生できます。BD（ブルーレイディスク）で採用されています。

DTS デジタルサラウンド

DTS 社により開発された、5.1 チャンネル対応の圧縮音声フォーマットです。多くの DVD ディスクなどで採用されています。

DTS 96/24

高品質 96kHz/24bit 5.1 チャンネルに対応した圧縮音声フォーマットです。従来の DTS デジタルサラウンドと互換性があります。音楽 DVD などで採用されています。

DTS-ES

DTS-ES 方式で収録された 6.1 チャンネル音声の再生方式です。5.1ch 信号に追加して、サラウンドバックチャンネルの音声も出力されます。サラウンドバックチャンネルの信号をサラウンドチャンネル信号に合成して収録するマトリックス方式と、独立した信号を収録するディスクリート方式があります。

DTS Express

DTS Digital Surround フォーマットよりも、さらに高圧縮に対応した 5.1 チャンネル対応の音声フォーマットです。ネットワークストリーミングや BD（ブルーレイディスク）のセカンダリーオーディオなどを目的として開発されています。

DTS-HD High Resolution Audio

DTS 社により開発された 高品質 96kHz/24bit 7.1 チャンネルに対応した圧縮音声フォーマットです。従来の DTS デジタルサラウンド と互換性があります。BD（ブルーレイディスク）などで採用されています。

DTS-HD Master Audio

スタジオマスター品質の音声を家庭で再現するために、DTS 社により開発されたロスレス（可逆型）高品質音声フォーマットです。96kHz/24bit 時で最大 8 チャンネル（192kHz/24bit 時は最大 6 チャンネル）のディスクリート音声信号を収録・再生できます。BD（ブルーレイディスク）で採用されています。

DTS Neo:6

2 チャンネルで記録された信号のソースを、6 チャンネル音声に変換する技術です。映画用の Cinema モード、音楽用の Music モードが用意されています。ディスクリート方式で記録されたソースのようなチャンネル分離感を実現します。

DSD（ダイレクト・ストリーム・デジタル）

SACD（スーパーオーディオ CD）などで採用されている、デジタル信号を記録する方式の一つです。2.8224Mbps のビットレートで記録され、CD よりも高音質な再生ができます。収録可能な周波数は 100kHz 以上、ダイナミックレンジは 120dB です。

MP3

MPEG 圧縮技術を使用した音声圧縮フォーマットです。人間の感じ取りにくい部分のデータを間引く非可逆圧縮方式を採用しており、音質を保ったままデータ量を約 1/10 に圧縮できると言われています。

MPEG-4 AAC

MPEG-4 オーディオ規格の一つです。音質を保ったまま、データ量を大幅に圧縮することができます。携帯電話や携帯音楽プレーヤーなどの小容量、高音質が求められる機器や、インターネット上のコンテンツ配信などにも利用されています。

PCM（パルス・コード・モジュレーション）
アナログ音声信号をデジタル音声信号に記録・変換・伝送する方式で、すべてのデジタル音声信号方式の基礎となる技術です。また非圧縮音声フォーマットとして、CD をはじめとして BD（ブルーレイディスク）などなどさまざまなコンテンツで採用されており、リニア PCM とも呼ばれています。

WAV
Windows 標準の音声ファイルの形式です。デジタル音声信号の保存形式などを規定しています。通常は PCM データ（非圧縮）が使用されますが、任意の圧縮方式も利用できます。

WMA（Windows Media Audio）
Microsoft 社が開発した音声圧縮フォーマットです。人間の感じ取りにくい部分のデータを間引く非可逆圧縮方式を採用しており、音質を保ったままデータ量を約 1/20 に圧縮できると言われています。

■ その他

リップシンク（Lipsync）
音声と映像の出力タイミングのずれを補正する技術です。映像信号の大容量化にともなう信号処理の複雑化により、音声に対して映像が遅れてしまう症状を補します。

LFE（低域効果音）0.1 チャンネル
音声成分の帯域が 20 ～ 120Hz の、低音域専用チャンネルです。Dolby Digital、DTS、AAC のいずれでも、全帯域用のチャンネルに加えて、効果的な場面で低音を増強するために使用されます。音声の帯域が低域のみに制限されているため、0.1 と表現されます。

HDMI/ 映像に関する用語

コンポーネントビデオ信号
映像信号を、輝度を表す Y 信号と、色を表す Pb/Cb 信号および Pr/Cr 信号の 3 系統に分けて伝送する方式です。それぞれの信号を独立して伝送するため画質の劣化が少なく、色をより忠実に再現できます。

コンポジットビデオ信号
輝度を表す Y 信号と、色を表す C 信号を 1 つの映像信号としてまとめて伝送する方式です。

D 端子
AV 機器間での映像信号の伝送に用いられる端子です。性能に応じて、D1、D4 などのランクで分けられています。D 端子では、コンポーネントビデオ信号とコントロール信号（走査線、アスペクト比、インターレース / プログレッシブの情報）を、1 本のケーブルで伝送できます。

Deep Color
HDMI がサポートしている映像技術です。RGB または YCbCr 信号の処理を、従来の 8 ビットに対して 10/12/16 ビットで処理することで、より豊かな色調表現が可能です。表現できる色の数が従来の数百万色から数億色に増えたことにより、グラデーションの表現力や暗部のディテール再現力が向上します。

HDMI
世界業界標準規格である HDMI（High-Definition Multimedia Interface Specification）規格に準じた、デジタルインターフェースです。デジタルビデオ / オーディオ信号をデジタルのまま劣化させることなく、1 本のケーブルで伝送できます。また、著作権保護技術（HDCP：High-bandwidth Digital Content Protection System）に対応しています。より詳しい情報は、"http://www.hdmi.org" を参照ください。

x.v.Color
HDMI がサポートしている映像技術です。色空間規格の 1 つで、sRGB 規格より広い色空間を持っているため、今までできなかった色の表現が可能です。sRGB 規格との互換性を確保しながら色空間を拡張し、より鮮明で自然な映像になっています。

ヤマハテクノロジー

サイレントシネマ
ヘッドホンでマルチスピーカーによる音場再生を仮想的に再現する技術です。すべての音場プログラムはヘッドホン用に効果調整されており、自然で立体感あふれるサラウンドをお楽しみいただけます。

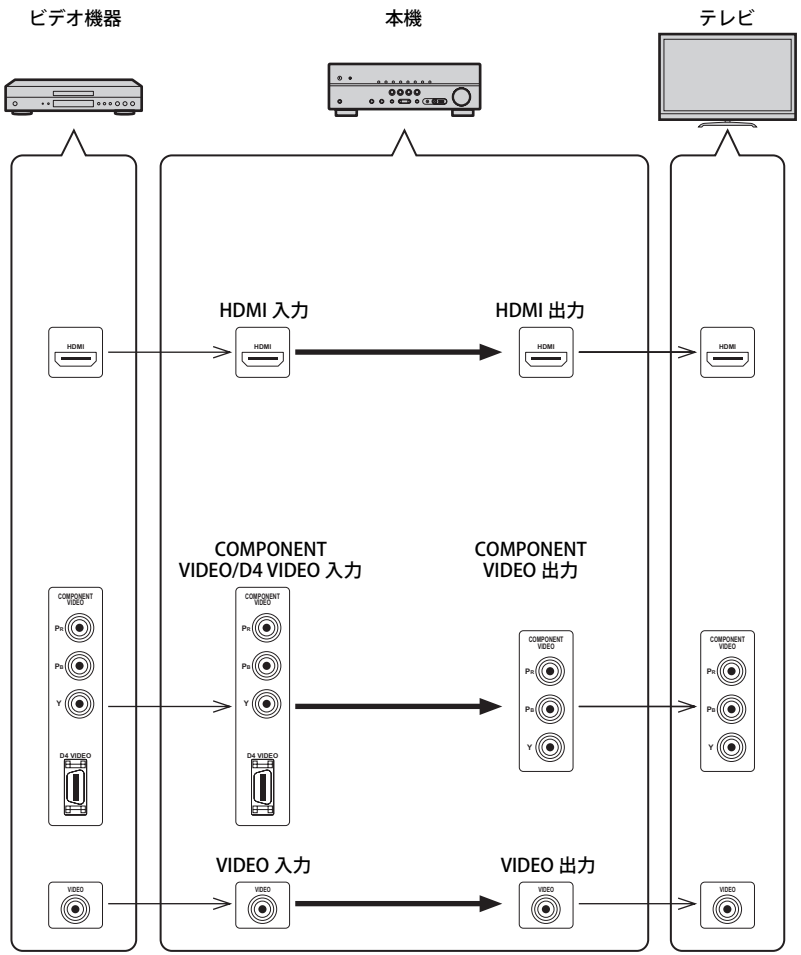
シネマ DSP（デジタル・サウンド・フィールド・プロセッサー）
Dolby Surround や DTS のシステムは、本来映画館用に設計されているため、ご家庭では部屋の広さや壁の材質、スピーカーの数などの条件の違いによって、同じソフトであっても視聴感に差が出てしまいます。ヤマハシネマ DSP は、豊富な実測データに基づく独自の音場技術を応用することで、音のスケールや奥行き、音量感を補い、ご家庭でも映画館のような視聴体験を実現します。

バーチャルシネマ DSP
フロントスピーカー 2 本のみでも、仮想的にサラウンドスピーカーの音場を再現する技術です。サラウンドスピーカーを設置していなくとも、豊かな音場プログラム再生をお楽しみいただけます。

ミュージックエンハンサー
携帯音楽プレーヤーや PC などで使用される圧縮オーディオフォーマット（MP3、AAC など）で不足しがちな高音域と低音域を拡張・強調する技術です。これにより圧縮オーディオをより音楽的にダイナミックにお楽しみいただけます。

映像信号の流れ

ビデオ機器から本機に入力された映像信号は、以下のようにテレビに出力されます。



HDMI について

HDMI コントロール

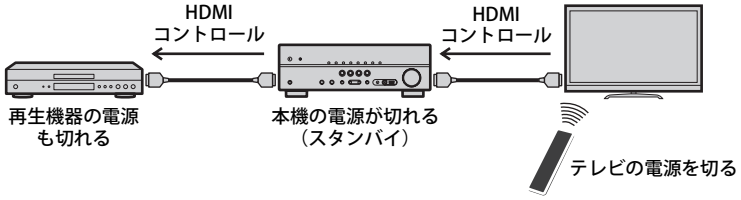
HDMI ケーブルで本機とテレビを接続すると、テレビのリモコン操作に連動して、本機の電源や音量などを操作できます（HDMI コントロール）。また HDMI ケーブルで接続した再生機器（HDMI コントロール対応の BD/DVD レコーダーなど）も操作できます。

接続方法については、「テレビを接続する」（19ページ）および「ビデオ機器を接続する（BD/DVD レコーダーなど）」（23ページ）をご覧ください。

テレビのリモコン操作による連動機能

- 電源スタンバイ
- 音量調節および消音
- テレビで内蔵チューナー選択時に、本機の入力をテレビ音声入力に切り替え
- テレビで再生機器を選択時に、本機の入力を再生機器に切り替え（映像をテレビに出力）
- 音声出力機器の切り替え（本機またはテレビ）

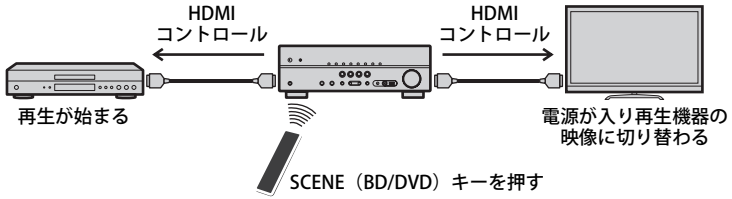
(動作イメージ)



本機のリモコン操作による連動機能

- シーン選択と連動して外部機器の再生開始およびテレビの電源入（34ページ）
- テレビの入力を本機の映像に切り替えてセットアップメニューを表示（SETUP キー操作時）

(動作イメージ)



HDMI コントロールを使うには、テレビ、再生機器を接続後に以下の連動設定が必要です。

- HDMI コントロール対応の機器を新しく追加するたびに、以下の設定が必要になります。

1 **本機、テレビ、再生機器の電源を入れる。**

2 **本機、テレビ、HDMI コントロール対応の再生機器（BD/DVD レコーダーなど）の HDMI コントロール機能を有効にする。**

本機の HDMI コントロール機能を有効にするには、セットアップメニューの「HDMI Control」（58ページ）を「On」（初期値）に設定してから、関連項目（TV Audio Input、Standby Sync、ARC、SCENE）を設定します。

3 **テレビの主電源を切ってから、本機と再生機器の電源を切る。**

4 **本機と再生機器の電源を入れてから、テレビの主電源を入れる。**

5 **テレビ側の入力設定を本機からの映像に切り替える。**

6 **以下の点を確認する。**

本機：再生機器からの HDMI 入力（「HDMI1 ～ 4」のいずれか）に切り替わっている。
ほかの入力が選ばれている場合は、手動で入力を選んでください。
テレビ：画面に再生機器の映像が表示されている。

7 **テレビのリモコンを使って電源スタンバイ、音量調節などの操作を行い、本機が連動するか確認する。**

- HDMI コントロールが正しく機能しないときに、再生機器の電源を入れ直したり、電源プラグを差し直したりすると改善されることがあります。また HDMI コントロール連動機器が制限数を超えて接続されていると正しく機能しないことがあります。この場合は、使用していない機器の HDMI コントロールを無効にしてください。
- 電源のみ連動しない場合は、テレビ側の優先音声出力設定を確認してください。
- HDMI コントロール機能をより有効に利用するために、テレビと再生機器は、なるべく同一メーカーのものを使うことをおすすめします。各メーカーの HDMI コントロール対応機種については、以下のウェブサイトをご覧ください。
  http://jp.yamaha.com/products/audio-visual/connect/hdmi_cec/

本機が対応している HDMI 信号

音声信号

音声フォーマット	詳細	ディスク（例）
2 チャンネルリニア PCM	2ch、32-192kHz、16/20/24bit	CD、DVD-Video、DVD-Audio
マルチチャンネルリニア PCM	8ch、32-192kHz、16/20/24bit	DVD-Audio、 BD（ブルーレイディスク）、 HD DVD
DSD	2/5.1ch、2.8224MHz、1bit	SACD
ビットストリーム	Dolby Digital、DTS、AAC	DVD-Video
ビットストリーム（HD オーディオ）	Dolby TrueHD、 Dolby Digital Plus、 DTS-HD Master Audio、 DTS-HD High Resolution Audio、 DTS Express	BD（ブルーレイディスク）、 HD DVD

映像信号

以下の解像度に対応しています。

- VGA
- 480i/60Hz
- 480p/60Hz
- 576i/50Hz
- 576p/50Hz
- 720p/60Hz、50Hz
- 1080i/60Hz、50Hz
- 1080p/60Hz、50Hz、24Hz
- 3840×2160p/30Hz、25Hz、24Hz（4K 信号）
- 4096×2160p/24Hz（4K 信号）

!

- **一部の再生機器は、コピープロテクトがかかった DVD オーディオの映像 / 音声を出力できません。**
- **本機は HDCP 非対応の HDMI または DVI 端子を装備したテレビやプロジェクターには対応していません。HDCP 対応の有無については、お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。**
- **ビットストリーム音声信号をデコードするには、再生機器がビットストリーム信号をそのまま出力するように、再生機器で設定を変更してください。詳しくは、再生機器の取扱説明書をご覧ください。**

主な仕様

入力端子

- アナログ音声
  ステレオ ×4（AV5、AUDIO1 ～ 2、V-AUX[3.5mm ミニ端子]）
- デジタル音声（対応 fs：32kHz ～ 96kHz）
  光 ×2（AV1、AV4）
  同軸 ×2（AV2 ～ 3）
- 映像
  コンポジットビデオ ×4（AV3 ～ 5、V-AUX）
  D4 ビデオ ×1（AV1）
  コンポーネントビデオ ×2（AV1 ～ 2）
- HDMI 入力
  HDMI×4（HDMI1 ～ 4）
- その他
  USB×1（USB2.0）

出力端子

- アナログ音声
  スピーカー出力 ×5（フロント左 / 右、センター、サラウンド左 / 右）
  サブウーファー出力 ×1
  AV OUT×1
  AUDIO OUT×1
  ヘッドホン ×1
- 映像
  MONITOR OUT
  - コンポジットビデオ ×1
  - コンポーネントビデオ ×1

  AV OUT
  - コンポジットビデオ ×1
- HDMI 出力
  HDMI OUT×1

HDMI

- HDMI 規格：Deep Color、"x.v.Color"、Auto Lips Sync、オーディオリターンチャンネル（ARC）、3D、4K
- 映像フォーマット
  - VGA
  - 480i@60Hz
  - 576i@50Hz
  - 480p@60Hz
  - 576p@50Hz
  - 720p@50/60Hz
  - 1080i@50/60Hz
  - 1080p@24/50/60Hz
  - 3840×2160p@24Hz、25Hz、30Hz
  - 4096×2160p@24Hz
- 音声フォーマット
  - Dolby Digital
  - DTS
  - DSD 6ch
  - Dolby Digital Plus
  - Dolby TrueHD
  - DTS-HD High Resolution Audio
  - DTS-HD Master Audio
  - DTS Express
  - PCM 2 ～ 8 チャンネル（Max 192kHz/24bit）
  - AAC
- 著作権保護：HDCP 準拠
- リンク機能：CEC 対応

チューナー

- アナログチューナー
  FM/AM×1（TUNER）

USB

- iPod、USB マスストレージクラス
- 最大供給電流 : 1A

対応デコードフォーマット

- デコードフォーマット
  - Dolby True HD、Dolby Digital Plus
  - Dolby Digital
  - DTS-HD Master Audio、DTS-HD High Resolution Audio、DTS Express
  - DTS、DTS-ES Matrix 6.1、DTS-ES Discrete 6.1、DTS 96/24
  - AAC
- ポストデコードフォーマット
  - Dolby Pro Logic
  - Dolby Pro Logic II Music、Dolby Pro Logic II Movie、Dolby Pro Logic II Game
  - DTS Neo:6 Music、DTS Neo:6 Cinema

オーディオ部

- 定格出力（1ch 駆動）（1kHz、0.9% THD、6Ω）
  フロント左 / 右 100W/ch
  センター 100W/ch
  サラウンド左 / 右 100W/ch
- 実用最大出力（JEITA、1kHz、10%THD、6Ω）
  フロント左 / 右 135W/ch
  センター 135W/ch
  サラウンド左 / 右 135W/ch
- ダイナミックパワー
  フロント左 / 右（6/4/2Ω）..... 110/130/150W
- ダンピングファクター
  フロント左 / 右、20Hz ～ 20kHz、8Ω ..... 120 以上
- 入力感度 / 入力インピーダンス
  AV5 ほか（1kHz、100W/6Ω）..... 200mV/47kΩ
- 最大許容入力
  AV5 ほか（1kHz、0.5%THD、Effect On）..... 2.3V
- 出力電圧 / 出力インピーダンス
  AV OUT 200mV/1.2kΩ
  SUBWOOFER 1V/1.2kΩ
- ヘッドホン出力 / 出力インピーダンス
  AV5 ほか（1kHz、50mV、8Ω）..... 100mV/470Ω

- 周波数特性
  AV5 ほか→フロント（10Hz ～ 100kHz）.....+0/–3dB
- S/N 比（IHF ネットワーク）
  AV5 ほか（入力ショート 250mV、スピーカー出力）
  ..... 100dB 以上
- 残留ノイズ（IHF ネットワーク）
  フロントスピーカー（スピーカー出力）..... 150μV 以下
- チャンネルセパレーション
  AV5 ほか（入力 5.1kΩ ショート、1kHz/10kHz）
  .....60dB/45dB 以上
- 音量可変範囲 ..... MUTE、–80dB ～ +16.5dB（0.5dB ステップ）
- トーンコントロール特性
  BASS（可変幅）..... ±6dB/0.5dB ステップ、50Hz
  BASS（ターンオーバー周波数）.....350Hz
  TREBLE（可変幅）..... ±6dB/0.5dB ステップ、20kHz
  TREBLE（ターンオーバー周波数）..... 3.5kHz
- フィルター特性（fc = 40/60/80/90/100/110/120/160/200Hz）
  H.P.F.（フロント、センター、サラウンド）.....12dB/oct.
  L.P.F.（サブウーファー）.....24dB/oct.

ビデオ部

- ビデオ信号方式.....NTSC
- 信号レベル
  コンポジットビデオ.....1Vp-p/75Ω
  コンポーネントビデオ /D4 ビデオ
  Y 1Vp-p/75Ω
  Cb/Cr 0.7Vp-p/75Ω
- ビデオ最大許容入力.....1.5Vp-p
- S/N 比.....50dB 以上
- モニターアウト周波数帯域
  コンポーネントビデオ /D4 ビデオ ..... 5Hz ～ 60MHz、–3dB

FM チューナー部

- 受信周波数範囲..... 76.0 ～ 90.0MHz
- 50dB SN 感度（IHF、1kHz、100% MOD.）
  モノ .....3.0μV（20.8dBf）
- S/N 比（IHF）
  モノ / ステレオ 72dB/70dB
- 歪率（1kHz）
  モノ / ステレオ.....0.3%/0.5%
- アンテナ入力.....75Ω、アンバランス

AM チューナー部

- 受信周波数範囲..... 531 ～ 1611kHz

総合

- 電源電圧.....AC 100V 50/60Hz
- 消費電力.....175W
- 待機電力.....0.3W 以下
- 寸法（幅 × 高さ × 奥行き）..... 435×151×315mm
- 質量..... 7.5kg

※ 仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。



「ご注意ください」という注意喚起を示します。



「〜しないでください」という「禁止」を示します。



「必ず実行してください」という強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

⚠警告	この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
⚠注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

⚠警告

電源 / 電源コード



電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。
万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。



下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。
- **異常なにおいや音がする。**
- **煙が出る。**
- **内部に水や異物が混入した。**

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



電源コードを傷つけない。
- **重いものを上に載せない。**
- **ステープルで止めない。**
- **加工をしない。**
- **熱器具には近づけない。**
- **無理な力を加えない。**

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



必ず AC100V（50/60Hz）の電源電圧で使用する。
それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。

電池



電池を充電しない。
電池の破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



電池からもれ出た液には直接触れない。
液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。

分解禁止



分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。
火災や感電の原因になります。
修理・調整は販売店にご依頼ください。

設置



本機を下記の場所には設置しない。
- **浴室・台所・海岸・水辺**
- **加湿器を過度にきかせた部屋**
- **雨や雪、水がかかるところ**

水の混入により、火災や感電の原因になります。



放熱のため本機を設置する際には :
- **布やテーブルクロスをかけない。**
- **じゅうたん・カーペットの上には設置しない。**
- **仰向けや横倒しには設置しない。**
- **通気性の悪い狭いところへは押し込まない。**

（本機の周囲に左右 20cm、上 30cm、背面 20cm 以上のスペースを確保する。）
本機の内部に熱がこもり、火災の原因になります。

使用上のご注意



本機を下記の場所には設置しない。
- **浴室・台所・海岸・水辺**
- **加湿器を過度にきかせた部屋**
- **雨や雪、水がかかるところ**

水の混入により、火災や感電の原因になります。



雷が鳴りはじめたら、電源プラグには触れない。
感電の原因になります。



本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。
水や異物が中に入ると、火災や感電の原因になります。
接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因になります。

お手入れ



電源プラグのゴミやほこりは、定期的にとり除く。
ほこりがたまったまま使用を続けると、プラグがショートして火災や感電の原因になります。

⚠注意

電源 / 電源コード



長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。
火災や感電の原因になります。



ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電の原因になります。



電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。



電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。
差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因になります。



電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントは使用しない。
感電や発熱および火災の原因になります。

電池



電池は極性表示（プラス＋とマイナスー）に従って、正しく入れる。
間違えると破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



指定以外の電池は使用しない。また、種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。
電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



長時間使用しない場合は、電池を本体から抜いておく。
電池が消耗し、電池から液漏れが発生し、本体を損傷するおそれがあります。



電池は幼児の手の届かない所に保管する。
口に入れたりすると危険です。



使い切った電池は、すぐに電池ケースから取り外す。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



使い切った電池は、自治体の条例または取り決めに従って廃棄する。

設置



不安定な場所や振動する場所には設置しない。
本機が落下や転倒して、けがの原因になります。



必ず 2 人以上で開梱や持ち運びをする。
重いので、けがの原因になります。



直射日光のあたる場所や、温度が異常に高くなる場所（暖房機のそばなど）には設置しない。
本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因になります。



ほこりや湿気の多い場所に設置しない。
ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因になります。



他の電気製品とはできるだけ離して設置する。
本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。



他の電気製品を本機の上に置かない。
本機の上部は高温になります。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。



屋外アンテナ工事は販売店に依頼する。
工事には、技術と経験が必要です。

移動



移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。
接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

使用上のご注意



電池は極性表示（プラス＋とマイナスー）に従って、正しく入れる。
間違えると破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



音が歪んだ状態で長時間使用しない。
スピーカーが発熱し、火災の原因になります。



大きな音で長時間ヘッドホンを使用しない。
聴覚障害の原因になります。



環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。
正常に動作しないときには、電源を入れない状態でしばらく放置してください。



業務用機器とは接続しない。
デジタルオーディオインターフェース規格は、民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器との接続は、本機の故障の原因となるばかりでなく、スピーカーを傷める原因になります。

お手入れ



手入れをするときには、必ず電源プラグを抜く。
感電の原因になります。



薬物厳禁
ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。
外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。



年に一度くらいは内部の掃除を販売店に依頼する。
ほこりがたまったまま使用を続けると、火災や故障の原因になります。

本機は「JIS C 61000-3-2」適合品です。
JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性第 3-2 部：限度値－高調波電流発生限度値（1 相当たりの入力電流が 20A 以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

索引

数字

2ch Stereo 36
5ch Stereo 36

A

A.DRC（オプションメニュー）..... 50
Action Game 36
Adaptive DRC（オプションメニュー）..... 50
Adjustment（セットアップメニュー）..... 61
Adventure 36
Amp（セットアップメニュー）..... 59
AM アンテナの接続 27
AM キー 39
AM ラジオ 39
ARC 19
ARC（セットアップメニュー）..... 59
Audio In（オプションメニュー）..... 52
Audio Output（セットアップメニュー）... 58
AUDIO 端子 18
Auto Power Down
（セットアップメニュー）..... 61

B

BD レコーダーの接続 23

C

CD プレーヤーの接続 26
Cellar Club 36
Center Image（セットアップメニュー）... 60
Center Width（セットアップメニュー）.... 60
Center（セットアップメニュー）..... 56
Chamber 36
COAXIAL 端子 18
COMPONENT VIDEO 端子 18, 22
Configuration
（セットアップメニュー）..... 56, 58
Crossover（セットアップメニュー）..... 56

D

D4 VIDEO 端子 18
Dimension（セットアップメニュー）..... 60
Dimmer（セットアップメニュー）..... 62
Distance（セットアップメニュー）..... 57
Drama 36
DSP Parameter
（セットアップメニュー）..... 60
DSP/Surround（オプションメニュー）..... 50
Dual Mono（オプションメニュー）..... 50
DVD レコーダーの接続 23
Dynamic Range
（セットアップメニュー）..... 61
D 端子ケーブル 18

E

ECO Mode（セットアップメニュー）..... 61
ECO（セットアップメニュー）..... 61
Enhancer（オプションメニュー）..... 51
EQ Select（セットアップメニュー）..... 57
Equalizer（セットアップメニュー）..... 57
Extra Bass（セットアップメニュー）..... 57

F

FM アンテナの接続 27
FM キー 39
FM ラジオ 39
Front（セットアップメニュー）..... 56
Function（セットアップメニュー）..... 62

H

Hall in Munich 36
Hall in Vienna 36
HDMI 1 ～ 4 端子 23
HDMI Control（セットアップメニュー）... 58
HDMI OUT（TV）
（セットアップメニュー）..... 59
HDMI OUT 端子 19
HDMI（セットアップメニュー）..... 58
HDMI ケーブル 18
HDMI コントロール 73
HDMI 端子 18

I

In.Trim（オプションメニュー）..... 51
INFO キー 33
INIT
（アドバンスドセットアップメニュー）..... 64
Initial Volume（セットアップメニュー）... 61
Input Rename（セットアップメニュー）... 62
Input Trim（オプションメニュー）..... 51
iPod コンテンツの再生 42
iPod 対応モデル 42

L

Level（セットアップメニュー）..... 57
Lipsync（オプションメニュー）..... 51
Lipsync（セットアップメニュー）..... 60

M

Max Volume（セットアップメニュー）..... 61
Memory Guard
（セットアップメニュー）..... 62
MEMORY キー 40
MONITOR OUT 端子 22
Mono Movie 36
Music Video 36

O

OPTICAL 端子 18

P

Panorama（セットアップメニュー）..... 60
PRESET キー 40

R

REMOTE ID
（アドバンスドセットアップメニュー）..... 63
Roleplaying Game 36

S

SCENE（セットアップメニュー）..... 59
SCENE キー 34
Sci-Fi 36
Select（セットアップメニュー）..... 60
Signal Info（オプションメニュー）..... 51
Sound（セットアップメニュー）..... 60
Speaker（セットアップメニュー）..... 56
Spectacle 36
Sports 36
Standard 36
Standby Sync（セットアップメニュー）... 59
Subwoofer Phase
（セットアップメニュー）..... 57
Subwoofer Trim（オプションメニュー）... 51
Subwoofer（セットアップメニュー）..... 56
Surround（セットアップメニュー）..... 56
SW.Trim（オプションメニュー）..... 51

T

Test Tone（セットアップメニュー）..... 58
The Bottom Line 36
The Roxy Theatre 36
Tone Control（オプションメニュー）..... 50
TUNING キー 39
TV Audio Input
（セットアップメニュー）..... 59
TV FORMAT
（アドバンスドセットアップメニュー）..... 63

U

UPDATE
（アドバンスドセットアップメニュー）..... 64
USB 機器のコンテンツ再生 46

V

VERSION
（アドバンスドセットアップメニュー）..... 64
VIDEO AUX 端子 27
Video Out（オプションメニュー）..... 52
VIDEO 端子 18
Volume Trim（オプションメニュー）..... 51
Volume（セットアップメニュー）..... 61

Y

YPAO 29
YPAO MIC 端子 29

あ

圧縮音源のダイナミック再生 38
アドバンスドセットアップメニュー 63
アフターサービス 87
アンテナの接続 27

い

インジケーター 9

え

映像信号の流れ 73
映像用ピンケーブル 18
エラー表示（前面ディスプレイ）..... 70
エラーメッセージ
（スピーカーの自動設定、YPAO）..... 31

お

オーディオ機器の接続 26
オーディオリターンチャンネル 19
オートプリセット （ラジオ局）..... 39
お問い合わせ窓口 87
オプションメニュー 49
オリジナルチャンネルの再生 37
音場効果 36

け

警告メッセージ
（スピーカーの自動設定、YPAO）..... 32
携帯音楽プレーヤーの接続 27

こ

故障かな？と思ったら 66
コンポーネントケーブル 18

さ

再生画面（iPod）..... 44
再生画面（USB コンテンツ）..... 48
再生機器の接続 23
再生ソースの設定 49

再生方法 33
サイレントシネマ 38
サブウーファーの接続 17
サラウンドスピーカーなしの音場効果 37
サラウンドデコーダー 38

し

シーン機能 34
システム設定の変更 63
自動登録（ラジオ局） 39
シネマ DSP 36
シャッフル再生（iPod コンテンツ） 45
手動登録（ラジオ局） 40
仕様 76
詳細機能の設定 53
商標 4
シンプル再生（iPod コンテンツ） 44

す

ステレオピンケーブル 18
ストレートデコード 37
スピーカーケーブルの接続 16
スピーカー設定の自動調整 29
スピーカーの接続 16
スピーカーの配置 14

せ

接続（スピーカー） 16
設定の初期化 64
セットアップメニュー 53
セットアップメニュー一覧 54
前面（各部の名称） 8
前面端子への接続 27
前面ディスプレイ 9
前面ディスプレイのエラー表示 70
前面ディスプレイの表示切り替え 33

て

テレビの接続 19
電源コードの接続 28

と

同軸デジタルケーブル 18
登録解除（ラジオ局） 41
登録呼び出し（ラジオ局） 40

に

入力端子の組み合わせの変更 25
入力と設定のワンタッチ切り替え 34

は

バーチャルシネマ DSP 37
配置（スピーカー） 14
背面（各部の名称） 10

ひ

光デジタルケーブル 18
ビデオカメラの接続 27
ビデオ機器の接続 23

ふ

ファームウェアの更新 64
ファームウェアバージョンの確認 64
付属品 5
ブラウズ画面（USB コンテンツ） 47
プリセット（ラジオ局） 39
フロントパネル（各部の名称） 8

へ

ヘッドホンを使用したサラウンド 38

ほ

保証 87

ま

マルチチャンネル再生 38

み

ミュージックエンハンサー 38

よ

用語 / 技術解説 71

ら

ラジオ 39
ラジオ局の登録 39
ランダム再生（USB コンテンツ） 48

り

リアパネル（各部の名称） 10
リピート再生（iPod コンテンツ） 45
リピート再生（USB コンテンツ） 48
リモコン（各部の名称） 12
リモコン ID の変更 63
リモコンの操作範囲 5

ろ

録画 / 録音機器の接続 28

わ

ワンタッチ切り替え 34

お問い合わせ窓口

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■ヤマハお客様コミュニケーションセンター オーディオ・ビジュアル機器ご相談窓口

ナビダイヤル（全国共通） 0570-011-808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL (053)460-3409

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

受付:月～金曜日 10:00～18:00　土曜日 10:00～17:00
（日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

■ ホームシアター・オーディオサポートメニュー

お客様から寄せられるよくあるご質問をまとめておりますので、ご参考にしてください。

http://jp.yamaha.com/support/audio-visual/

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル（全国共通） 0570-012-808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL (053)460-4830

受付:月～金曜日 9:00～18:00　土曜日 9:00～17:00
（日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

FAXでのお問い合わせ

北海道、東北、関東、甲信越地域にお住まいのお客様
(03)5762-2125

九州、沖縄、中国、四国、近畿、東海、北陸地域にお住まいのお客様
(06)6465-0367

修理品お持ち込み窓口
受付:月～金曜日 9:00～17:45
（土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

首都圏　〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03)5762-2125

名古屋　〒454-0832 名古屋市中川区清船町4丁目1-11
ピアノ運送(株)名古屋営業所1F
FAX (052)363-5903

大阪　〒554-0024 大阪市此花区島屋6-2-82
ユニバーサル・シティ和幸ビル9F
FAX (06)6465-0374

九州　〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2丁目11-4
FAX (092)472-2137

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

● 保証期間
製品に添付されている保証書をご覧ください。

● 保証期間中の修理
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み

技術料　故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。

部品代　修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

出張料　製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 製品の状態は詳しく
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● スピーカーの修理
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！



愛情点検

こんな症状はありませんか？
- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社
〒430-8650　浜松市中区中沢町10-1





ヤマハ株式会社

© 2012 Yamaha Corporation Printed in China ZA51060